

東日本大震災にかかる社会学研究者による
震災問題への取り組みについての情報提供

<第3版作成中 第2版以降8月2日から9月14日まで情報分(第3版追加分は敬称略)>
(7月23日分第1版に8月3日分まで追加が第2版。さらに9月15日分まで追加
の上、形式を大幅に修正して、2011年9月15日とりまとめ=>これはその速報版
です)

第1回調査で42件、第2回調査では65件の情報提供あり。その他、情報をあわせてとりまとめる。調査項目は以下の通りとした。

- i 東日本大震災関連の社会学調査研究の活動情報
いつ、どこで、だれが、どんな研究をしているのか。
- ii 震災関連の社会学シンポジウム、研究会、学会の大会企画など、催し情報
開催の告知や参加募集、また開催後の記録作成など
- iii 震災関連のアウトプット情報
会員による記事や論述、報告書や論文、著書。研究アウトプットの提供、あるいはその内容紹介など。誰が、何を考え、どんな情報を発信しているのか。
- iv その他
他学会などとの関係で必要な情報など、その他、震災問題に取り組む社会学者にとって有意義な情報。

紙幅の関係上、内容の簡略化、文体の短縮化、抜粋を行っている。

<目次>

- i 東日本大震災関連の社会学調査研究の活動情報：1. 地域別、2. テーマ別
 - <1. 地域別①——地震・津波被害>
 - <2. 地域別②——原発事故関連>
 - <3. テーマ別>
- ii 震災関連の社会学シンポジウム、研究会、学会の大会企画など、催し情報
- iii 震災関連のアウトプット情報
- iv その他

i 東日本大震災関連の社会学調査研究の活動情報

< 1. 地域別①——地震・津波被害 >

< 青森県 >

○三沢市

○八戸市

地震発生後に八戸市社協に聞き取り（3月23日頃）（首都大学東京・山下祐介会員）[※8月3日第2版時の情報]

○階上町

< 岩手県 >

・岩手大学全体として、沿岸復興支援プロジェクトとして、主として岩手県の沿岸部全域を対象として、工学、農学関連からはじまって、少数派の社会学にいたるまで、50件ほどのプロジェクトを立ち上げ中。

（岩手大学・麦倉哲会員）[※8月3日第2版時の情報]

○洋野町

○久慈市

久慈市からの要請で、久慈市の避難住宅居住者調査を、麦倉が引き受けています。

（岩手大学 麦倉哲）[第3版（20110915）追加]

○野田村

①氏名：山口恵子

②所属：弘前大学人文学部

③連絡先：ykeiko@cc.hirosaki-u.ac.jp

④テーマ・キーワード：地域社会、ボランティア、記憶の復興

⑤調査対象地：岩手県野田村

⑥内容：

・4月から毎週一回のボランティアバス定期便の運行（弘前市・市民・大学の協働運行）

・ワークショップ、ねふた祭りの参加、活動報告会などの各種イベント実施

・野田村を支援・交流する各種団体や個人がゆるやかにつながるネットワークである「チーム北リアス」に関連するイベントの実施

・ボランティア参加者を対象とした、震災の経験とボランティアがキャリアに及ぼす影響に関する聞き取り調査と郵送調査の実施（聞き取りは随時、郵送調査は10月後半に実施予定）

・野田村住民を対象とした、暮らしと災害の経験に関する聞き取り調査（随時）

・野田村住民を対象とした、暮らしと復興についての質問紙を用いた面接聞き取り調

査（計画中・時期は未定）

⑦参照アドレス：弘前大学人文学部ボランティアセンター (<http://huvv.net/>)

⑧添付ファイルなど：HPを参照のこと

[第3版（20110915）追加]

・弘前大学人文学部ボランティアセンターを設置。岩手県野田村へ、学生市民とともにオール弘前を結成して定期的に支援活動。

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/eprc/vol/index.html>

弘前市・弘前大学人文学部ボランティアセンター・チーム北リアスとともに、岩手県野田村支援。対口支援を模索。北東北の間接被害地域（青森県津軽地方）と直接被害地域（岩手県三陸北部地域）の共生可能性について研究を続けたい。（首都大学東京・山下祐介会員）[※8月3日第2版時の情報]

○普代村

○田野畑村

東日本大震災によって発動した防犯意識一田野畑村における消防団の夜警

震災後一ヵ月半ほど、地元消防団による夜警が行われたのですが、なぜ、消防団が取り組まなければならないのか、その意味などについて、消防団への聞き取りをもとに検討します。（東日本大震災時の行動への反省も含め述べる予定）

（岩手県立大学 庄司知恵子）[第3版（20110915）追加]

・岩手県立大学・吉野会員と庄司会員が調査との情報。[※8月3日第2版時の情報]

○岩泉町小本

○宮古市田老町

4月に聞き取り（首都大学東京・山下祐介会員）[※8月3日第2版時の情報]

○宮古市

津軽石川流域、閉伊川流域がフィールドの大阪府立大学・福永真弓会員が震災後もフォロー。[※8月3日第2版時の情報]

○山田町

・社会学者として私が参加している小さな研究会にFDs研究会という研究会があります（Food Deserts：食の砂漠 問題を研究しています）。主に地理学者で構成されていますが、社会学者として私が入っています。この研究グループが、山田町で食の供給について調査を行い、秋の日本地理学会にて報告する予定です。（明治学院大学・浅川達人会員）[※8月3日第2版時の情報]

○大槌町・山田町、石巻市

①氏名 飯坂正弘（いいざか・ただひろ）

②所属 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター主任研究員

③連絡先 〒305-8666 つくば市観音台3-1-1

④テーマ・キーワード 産業復興 人口移動

⑤調査対象地 岩手県大槌町・山田町をはじめとする三陸沿岸：今後調査旅費を確保できれば、石巻市（旧牡鹿町の牡鹿半島）に入る予定ですので、田代島、網地島、あるいは鮎川などを調査地に予定されている方（すでに入られている方）がいらっしゃれば、ご連絡下さい。

⑥内容

「沿岸地域の復興とコミュニティの再建ならびに持続可能な社会の構築に関する研究」（三井物産環境基金⑦持続可能な社会の構築）において研究助成を受け代表者：麦倉哲・岩手大学教育学部教授。

・第一次産業（水産業・農林業と関連産業）の復興が上述プロジェクトにおいて私が分担する課題であり、海洋生物学の教授とも上述プロジェクトにおいて共同研究を進めている。

・震災前から人口流出が著しい三陸地方における将来人口推計は、日本人口学会地域人口部会 ML のメンバーと検討中

・月刊『ニューカントリー』6月号と月刊『統計』9月号に執筆依頼論文掲載済。

・国立歴史民俗博物館で今秋予定している企画展に、現地写真を提供。

・大槌町で被災しながら地元住民の支援で、無事海外へ脱出したシーシェパードのメンバー達のその後や、域外から入るNPO・ボランティアと現地のニーズのギャップ（毎日違う慈善団体が、カレーだけ炊き出しを交替でしていた、あるいはせつかく営業再開した飲食店の、隣で同じメニューを無料炊き出ししていた等）といった事象にも関心はありますが、上の2つでたぶん限界です。

・なお職場（中央農研）では、土壌、栽培など他の分野の研究者が、飯舘村などで除染の試験を行っており、結果の公表が始まっています。

・参照アドレス t_iizaka@toki.waseda.jp で、Webサイトはこれから立ち上げますが、何をしているかについての紹介をする時期を過ぎ、調査研究成果を早く公表せよといわれている現実は、研究者でしたら既におわかりのはずです。

[第3版（20110915）追加]

○大槌町

震災に関連して、同じ大学の、社会学（竹村さん、小野澤さんら）や他の分野の先生方と相談をしつつ地域社会の持続性、コミュニティの再生という視点で、

岩手県大槌町にて

被災実態（主として人命、地域活動団体）、被災関係者からの聞き取り

避難所リーダーインタビュー

仮設住宅住民調査

岩手県大槌町にて

仮設住宅住民調査

などを進行・準備中。

岩手大学全体としては、沿岸復興支援プロジェクトとして、主として岩手県の沿岸部全域を対象として、工学、農学関連からはじまって、少数派の社会学にいたるまで、50件ほどのプロジェクトを立ち上げ中です。

(岩手大学 麦倉哲) [第3版(20110915)追加]

・麦倉哲会員を代表とするチームに参加し、三井物産環境基金より、研究助成を受けている。

www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/fund/pdf/r_110714_03.pdf

「沿岸地域の復興とコミュニティの再建ならびに持続可能な

社会の構築に関する研究—主として大槌町、山田町を対象として—」

(農業・食品産業技術総合研究機構・飯坂正弘会員) [※8月3日第2版時の情報]

・被災写真の修復と被災冊子の汚れ落としのボランティアに参加 (添付ファイル「新聞記事」2011年6月8日参照、大槌町への支援)。福岡県小郡市内のボランティアグループ団体の活動へ、個人として参加させてもらうことが出来ました。(山口信枝会員) [※8月3日第2版時の情報]

○大槌町吉里吉里

①氏名：浅川達人 (あさかわたつと)

②所属：明治学院大学社会学部，明治学院大学ボランティアセンター長補佐

③連絡先：asakawa@soc.meijigakuin.ac.jp

④テーマ・キーワード：都市，農村，地域社会，東北論，復興，子ども・教育，労働・経済

⑤調査対象地：岩手県大槌町吉里吉里地区

⑥内容：『吉里吉里語辞典』の文字・音声データアーカイブ化作業と同時に、この地域の昔の生活の記憶や、吉里吉里甚句などの文化も記録するという作業をしています。

⑦参照アドレス：<http://web.me.com/t.asa0404/AsaLABO/Welcome.html>，
<http://voluntee.meijigakuin.ac.jp/>

⑧添付ファイルなど：日本都市社会学会第29回大会のラウンドテーブルで報告させていただいた時の資料を、添付させていただきました。

日本都市社会学会第29回大会：東日本大震災ラウンドテーブル

東日本大震災 Do for Smile@東日本プロジェクト

浅川達人 (明治学院大学)

1.0 明治学院大学ボランティアセンターの取り組み

3/15 募金活動準備開始

3/17～19 学内にて募金活動

3/22～ 被災地支援活動立案に向けてのミーティング

	①被災地での支援活動
	②東京・横浜方面に避難された方々のための支援活動
	の両面からの支援活動を検討
3/27	大学ボランティアセンターリソースセンターのメンバーである、岩手県立大学の山本先生から学生ボランティア派遣の依頼を受ける
3/31	現地までの交通事情，ガソリンの供給体制，余震の状態，原発事故の影響を考慮しながら先遣隊派遣の準備
4/4	センター長と学生4名が先遣隊として，日本ユニセフ協会と協働プログラムをスタート
4/8～10	センター長補佐，2名のボランティア・コーディネーター，事務職員の4名で，東北学院大学を訪問（4/8）。翌日（4/9）宮古市，山田町，大槌町，釜石市と現場を視察。岩手県立大学にて協働プログラムについて検討。
4/11	執行部会において，①に本ユニセフ協会との協働プロジェクト，②東北学院大学との協働プロジェクト，③岩手県立大学との協働プロジェクト，をスタートさせることが決定。
4/12	派遣学生の決定
4/16	学内でのオリエンテーション
	①被災地の様子
	②活動の心得
	③チームビルディングと役割分担
	④傾聴講座
4/19～5/2	約5日間を1タームとして，3ターム学生を派遣（計32名）。「緊急支援」を目的として，以下の3種の活動を行った。センター長補佐とボランティア・コーディネーターが引率。
	①吉里吉里地区の学校再開支援
	②保育園にて支援物資の仕分け，園児とのふれあい
	③写真修復作業
5/21～22	センター長補佐，ボランティア・コーディネーター，学生3名にて活動。「緊急支援の継続と中長期的な枠組みづくり」を目的として以下活動を行った。
	①保育園での支援物資配りの準備
	②炊き出し&ミニ配食（大槌町大ケロ地区にて，NPO法人「くらしまちづくりネットワーク横浜」と合同で行った）
6/18～20	センター長補佐，ボランティア・コーディネーター，学生10名にて「復興支援」を目的として活動。
	①足浴会
	②買い物支援ツアー
	③子ども遊び
	④写真修復作業
	⑤お茶っこサロン運営補助（大槌町大ケロ地区にて，NPO法人「くらしまちづくりネットワーク横浜」と合同で行った）
7/9～10	センター長補佐，ボランティア・コーディネーター，学生10名にて「夏休

みの大規模派遣の準備」を目的として以下の活動を行った。

- ①大槌中学校での支援物資配布援助
 - ②買い物支援ツアー
 - ③夏物衣料配布
- 8/1～5 センター長補佐，ボランティア・コーディネーター，学生 5 名にて学習支援活動を行った。と同時に，夏休みの大規模派遣の最終準備作業も行った。
- ①大槌町教育委員会と連携し，吉里吉里中学校と大槌中学校の学生に対して，個人指導を行った。
 - ②「復活の薪プロジェクト」に参加
- 8/9～13 センター長，ボランティア・コーディネーター，学生 7 名が活動。
- ①子ども遊び
 - ②「復活の薪プロジェクト」に参加
- 8/17～22 本学教員，ボランティア・コーディネーター，学生 9 名が活動。
- ①「復活の薪プロジェクト」に参加
 - ②堤福祉会での活動（足浴会，お茶会などの企画運営）
 - ③吉里吉里の歴史アーカイブ化のための現地での情報収集
- 9/1～6 センター長補佐，ボランティア・コーディネーター，学生 15 名が活動。
- ①山田町の地元大手スーパーである「びはん」の移動販売車に同乗しての，御用聞き活動
 - ②NPO 法人「くらしまちづくりネットワーク横浜」と協働で，郷土料理「ひつつみ」の食事会
 - ③旧避難所の清掃
 - ④「復活の薪プロジェクト」に参加
 - ⑤『吉里吉里語辞典』音声データ収録作業

2.0 復活の薪プロジェクト

○廃材となる瓦礫を，薪として利用する。痛みのある部分や汚れのついた表面部分はずべてカット。釘などもひとつひとつ手作業で除去。そのうえで，10kg を 500 円で販売（送料別）。400 円は労働対価として，働いた被災者に支払われ，100 円が NOP 法人（申請中）「吉里吉里国」の収入となる。

○9 月現在，全国より約 2000 個の注文を受注

○9 月末からは，山に入って森林の手入れをし，間伐材を薪にする活動を開始する予定。

3.0 『吉里吉里語辞典』電子データ化プロジェクト

○関谷徳夫さんが約 10 年を掛けて，『吉里吉里語辞典』を作成。約 8000 語を収録。

○津波でほぼすべてが流された

○6 月の写真修復活動中に，偶然，『吉里吉里語辞典』1 冊を回収。

○6/26 から入力作業開始。9/5 現在，のべ 104 名のボランティアが活動に参加し，94 ページの入力作業が終了している。

○9/1 より，吉里吉里地区の住民に発音を音声データとして収録する作業を開始。9/2 現在，16 ページの音声データを収録済み。

○吉里吉里甚句，御祝唄の生演奏の動画も同時に収録。

(例)「朝な菓子(あさながす)」: 朝，起き抜けの子供(達)に与えられる菓子類。おめざ。

「滄あ掻ぐ(あがあかぐ)」: 滄とは船底の内側に，自然にあるいは急激に溜まる水を指し，それを舟の外に掻き出す。

4.0 吉里吉里学プロジェクト

○水道・電気・ガスがない時代を生きた「吉里吉里人」は，震災・津波による被害にも動じなかった。常日頃共同作業を行っていた彼らの生活史に学ぶところは大きい。

○『吉里吉里語辞典』に収録されている吉里吉里の人々の暮らしについて，音声データの収録とともに話していただき，吉里吉里の人々の記憶を記録する。(現在作業中)

○被災時，そして復興の過程の記憶を語ってもらい，文字データとしてアーカイブ化する。(現在作業中)

○生活史と復興のプロセスを学ぶプロジェクトを「吉里吉里学」として立ち上げ，吉里吉里の子供たち，そして他の地域で暮らす我々もそれを学ぶ。(これを学ぶために人々が吉里吉里を訪れることにより，宿泊や食事，そして語り部といったサービスに対する雇用が生まれる。)

[第3版(20110915)追加]

・○明治学院大学ボランティアセンターとして，4月より被災地支援活動を継続して行っています。活動は大別して以下の3種類です。(1)岩手県大槌町吉里吉里地区での活動，(2)東北学院大学と連携しての気仙沼での活動，(3)他のNPOなどと連携して行う活動。このうち(1)については，4月から毎月1回は現地を訪れ活動しています。

活動資金は，学内でおこなった募金，ボランティアチャレンジファンドとして蓄えてきたお金，そして中央募金会から助成いただいたお金をあてています。

(わたしは，ボランティアセンター長補佐として，主に(1)を担当しています) ○また明治学院大学社会学部附属研究所は，ボランティアセンターと連携協力して，被災地支援活動の記録化に着手しています。(私は同研究所の調査研究部門主任も兼務しているという事情があるため，研究所のスタッフにも助けていただいています)

(明治学院大学・浅川達人会員) [※8月3日第2版時の情報]

・○明学ボランティアセンターの被災地支援の一環ですが，主に私が個人的に対応している被災地支援として，『吉里吉里語辞典』電子データ化プロジェクト」があります。吉里吉里地区の方言を集めた辞典があるのですが，津波に流されてしまいました。流された品のなかから拾った1冊をもとに，電子データ化して，言葉と言葉にこめられた生活を保存する試みです。

○8/3, 4, 5 と吉里吉里を訪れ，「復活の薪プロジェクト」にボランティアとして参加してきます。この「復活の薪プロジェクト」を海外にも広報するために，現在，同ホームページを多言語訳するプロジェクトも起こしています。(これも私が個人的に引き受けています)

(明治学院大学・浅川達人会員) [※8月3日第2版時の情報]

○盛岡市

都市部町内会における東日本大震災への対応―盛岡市松園地区を事例に―
東日本大震災の日、都市部町内会はどのように対応したのか。盛岡市は、狭義の被災地（津波被害地域）ではないものの、3日間にわたる停電等あがり、生活の不便を強いられた。「自主防」を巡る議論をもとに、北松園自主防災隊の当日の流れと、行政の思惑を追い、そこから、都市部町内会における「防災コミュニティ」の現状と課題を描き出す予定。
(岩手県立大学 庄司知恵子) [第3版 (20110915) 追加]

○釜石市

- ①氏名 西野淑美・石倉義博・永井暁子 (※この3名は日本社会学会会員、他に非会員多数参加)
- ②所属 東洋大学社会学部 (西野)・早稲田大学理工学術院 (石倉)・日本女子大学人間社会学部 (永井)
- ③連絡先 y_nishino@toyo.jp (西野)
- ④テーマ・キーワード 復興、生活再建
- ⑤調査対象地 岩手県釜石市
- ⑥内容

「釜石市民の暮らしと復興についての意識調査」の実施
東京大学・神戸大学等の社会学系・建築都市計画系のチーム（調査代表者：東京大学 佐藤岩夫・神戸大学 平山洋介）で、岩手県釜石市で生活再建に向けた基礎データを収集する質問紙調査を、釜石市役所のご協力のもとに行いました。現在集計中で、9月20日までには、釜石市役所向けの第一次報告書をまとめる予定です。

対象：震災発生当時釜石市に居住し、被災した世帯のうち、現在の居住地がわかる世帯
市内仮設住宅全戸、市内公的住宅に入居した被災者全戸、浸水地域の在宅者の多く、民間賃貸・知人等宅避難者の一部

調査方法：質問紙自記式4ページ ポスティング配布（一部郵送）・郵送回収

配布期間：2011年7月30日～8月8日（返送締切8月25日）

配布数：最大3959票（「最大」としたのは、自宅と仮設などへの重複配布がありえるため）

回収数：1658票

なお、今後も継続的な調査を計画しております。

⑦参照アドレス <http://jww.iss.u-tokyo.ac.jp/fukko-kamaishi/>

⑧添付ファイルなど 調査票のpdfを8月13日にMLにお送りしました。

Google グループの過去ログでご覧いただければ幸いです。

（過去メール1）

1) 東京大学・神戸大学等の社会学系・建築都市計画系のチームで、岩手県釜石市で生活再建に向けた基礎データを収集する調査（「釜石市民の暮らしと復興についての意識調査」）を、釜石市役所のご協力のもとに行いました。

詳細は <http://jww.iss.u-tokyo.ac.jp/fukko-kamaishi/> をご覧ください。

社会学系の参加メンバーは、以下の通りです。

- ・東京大学社会科学研究所 大堀研（地域社会学会会員）
- ・早稲田大学 石倉義博（日本社会学会会員）
- ・日本女子大学 永井暁子（日本社会学会・家族社会学会会員）
- ・東洋大学 西野淑美（日本社会学会・日本都市社会学会・地域社会学会会員）

※社会学系の学会に所属していない可能性が高いですが、関連分野として下記のメンバーも参加しています。

- ・神戸大学 平山洋介（住宅政策・都市論）
- ・東京大学社会科学研究所 佐藤岩夫（法社会学）
- ・東京大学社会科学研究所 佐藤慶一（都市防災・住宅政策・社会調査）
- ・岩手大学 土屋明広（法社会学）

7月29日～8月4日に、学生調査員を含めた約30名で現地での調査票配布を行い、その後の郵送分と合わせて、約4500票を配布いたしました。

釜石市役所とは、仮設住宅や公的住宅に関する情報をいただいたり、「復興釜石新聞」という市役所の広報を兼ねた地元新聞に掲載をしていただいたり、密接な関係のもとに調査を実施しました。調査結果は市役所にも報告して、今後の施策に役立てていただく予定です。

2) 東京大学社会科学研究所の「希望学プロジェクト」の一環として、震災後にメンバーが交代で岩手県釜石市を訪れ、現地の様子を見聞きしてきました。

「希望学プロジェクト」は2006年から釜石市で調査を行ってきたため、それぞれが現地の知人（市役所の方、企業の方、住民の方など）を訪ねました。私も、4月26-27日（釜石市市役所・避難所等）、5月7-8日（釜石市内避難所および花巻市・盛岡市の一時避難先）、5月29-30日（釜石市住民等）に訪問しました。

それぞれが得た情報は、7回に分けてプロジェクト内で報告会を開き、7月14日には外部に向けて「公開ワークショップ 希望の再興にむけて―釜石地域の現況と課題―」を開催しました。

http://project.iss.u-tokyo.ac.jp/hope/symposium/110714_kamaishi.html

社会学系の参加メンバーは、以下の通りです。

- ・東京大学社会科学研究所 大堀研（地域社会学会会員）
- ・早稲田大学 石倉義博（日本社会学会会員）
- ・東洋大学 西野淑美（日本社会学会・日本都市社会学会・地域社会学会会員）

※社会学系の学会に所属していない可能性が高いですが、関連分野として下記のメンバーも参加しています。

- ・東京大学社会科学研究所 佐藤岩夫（法社会学）
- ・東京大学社会科学研究所 佐藤慶一（都市防災・住宅政策・社会調査）

また、社会学系ではありませんが、プロジェクト代表の玄田有史氏（東京大学社会科学研究所）

と、プロジェクトメンバーの橋川武郎氏（一橋大学）は、釜石市の復興アドバイザーに就任しています。

なお、希望学プロジェクトでは、今後長期的に（10年スパンなどで）釜石市での調査に

取り組んでいく予定です。

(東洋大学社会学部 西野淑美)

(過去メール2)

東京大学社会科学研究所の「希望学」というプロジェクトに参加していたため、岩手県釜石市に、2006年から調査でお世話になってまいりました。

このたびの震災が起きてしまい、当初はお見舞いという形で何度か釜石を訪問しました。

その後、さる7月29日～8月4日に、東京大学社会科学研究所・神戸大学等の、社会学・法社会学系と建築都市計画系のチームに参加し、生活再建に向けた釜石市民の基礎データを収集する調査を、釜石市役所のご協力のもとに行いました。(「釜石市民の暮らしと復興についての意識調査」、代表：東京大学 佐藤岩夫・神戸大学 平山洋介)

被災された方のうち、仮設住宅や公営住宅で仮住まいされている方、また自宅を補修するなどして生活されている方々約4500世帯に、現地でポスティングで調査票を配布しました(一部郵送)。

他地域で調査をされる方の何らかのご参考になれば、また今後地域間での比較が少しでも可能になればと、調査チームの了解のもと、調査票を添付でお送りします。

その他の調査詳細は、<http://jww.iss.u-tokyo.ac.jp/fukko-kamaishi/> をご覧ください。

釜石市役所からは、仮設住宅や公的住宅に関する情報をいただいたり、「復興釜石新聞」という市役所の広報を兼ねた地元新聞に掲載をしていただき、密接な関係のもとに調査を実施しました。結果は今後の施策に役立てていただく予定です。調査票は8月中旬に郵送回収、9月中旬に調査結果の速報を市役所に報告予定です。

また、今後も継続的な調査を計画しております。

取り急ぎ、このような調査が実施されたという情報を、シェアさせていただきます。

*対象地：岩手県釜石市

*テーマ・キーワード：生活復興、被災者調査、調査票調査

*情報提供の年月日：2011年8月13日

(東洋大学社会学部社会学科講師 西野淑美)

[第3版(20110915)追加]

○大船渡市

①氏名 阿部晃士・茅野恒秀

②所属 岩手県立大学総合政策学部(防災・復興研究会社会調査チーム)

③連絡先 chino@iwate-pu.ac.jp

④テーマ・キーワード 復興、防災・減災、地域社会

⑤調査対象地 岩手県大船渡市

⑥内容

- ・大船渡市の復興計画策定に向けた動きの追跡調査
- ・復興に向けた市民意向調査の実施
- ・市民ワークショップ等にファシリテーターを派遣

[追加説明]

岩手県立大学総合政策学部では、東日本大震災以後、学部を挙げて「防災・復興研究会」を組織し、岩手県内の沿岸被災地に関与しています。これまで、大船渡市災害復興局と協力して、

- ・4/22～5/2にかけて配布・回収した「第1回復興に向けた市民意向調査」の集計・分析を実施

- ・5/22～7/24にかけて3回開催された「復興計画策定委員会専門部会」にファシリテーターを派遣

- ・7/10、7/17に開催された「市民ワークショップ」にファシリテーターを派遣

- ・8/24～9/15にかけて13回開催された「復興に向けた地区懇談会」の傍聴、記録作成を実施を行ってきました。

今後、

- ・9/23に開催する「大船渡市こども復興会議」の運営協力

- ・11月上旬をメドに「第2回復興に向けた市民意向調査」の実施を予定しています。

研究会には、

(1)社会調査チーム

(2)産業経済・行政チーム

(3)社会・環境基盤チーム

の3チームが組織され、社会調査チームに、日本社会学会会員である吉野英岐、阿部晃士、山田佳奈、庄司知恵子、茅野恒秀が所属しています。チーム代表は阿部晃士、事務局を茅野が務めています。

[第3版(20110916)追加]

- ・大船渡市における住民意識調査他

県立大学総合政策の先生方と一緒に取り組んでおります。

まだ始まったばかりでフィールド調整を取り始めた状況です。

量的調査と質的調査、両面から取り組みますが、現在問題意識を共有している状態です。

(岩手県立大学 庄司知恵子) [第3版(20110915)追加]

- ・富士常葉大学では防災系の研究者で岩手～宮城の沿岸部に調査。文系教員としては私が岩手県大船渡市に通っている。また学生によるボランティア活動(静岡県ボランティア協会経由)を継続。(富士常葉大学・木村周平会員) [※8月3日第2版時の情報]

①氏名 平山満紀(ひらやま まき)

②所属 明治大学文学部心理社会学科准教授

③連絡先 千代田区駿河台1-1 明治大学

④テーマ・キーワード 復興 心の問題 医療・健康 復興ボランティア

⑤調査対象地 岩手県大船渡市

⑥内容

- ・被災による心身の疲弊と、自律的な回復の方法についての研究

- ・大船渡市社協などを通じたボランティアを、学生と共に実行
- ・大船渡市で活動する、国際的なボランティア団体 All Hands に参加してボランティアを実行、外国人ボランティア達の聞き取りもおこなう。
- ・被災と復興生活についての、被災者の語りを聴く会を開催（8月と9月に各1回）
- ・産経新聞『からだ こころ いのち ー再生の時代』(毎週月曜夕刊に連載)に上記テーマを中心とした観察、考察を掲載

⑦参照アドレス hirayama@meiji.ac.jp

<http://www.hirayama-body.com> 「平山身体文化研究室」

⑧添付ファイルなど

[第3版(20110915)追加]

○大船渡市三陸

○陸前高田市

- ・農村社会学を専門に、陸前高田市において調査を実施。

先の東北社会学会大会において、「激甚被災地における小経営の存続と再生の可能性。一岩手県 陸前高田市0商店とK和菓子店を事例として—」という自由報告を行いました。日本社会学会大会でも報告予定です。

文化人類学・政治学分野のフィールドワーカーとともに、東北大学大学院情報科学研究科の東日本大震災研究プロジェクトを7月より進めております。

(東北大学 牧野友紀) [第3版(20110915)追加]

- ・日本社会学会大会の自由報告部会「災害」

「津波被災地における非浸水地区の果たす役割——岩手県陸前高田市横田町を事例として——」

(東北大学・牧野友紀会員) [※8月3日第2版時の情報]

・岩手大学の経済学の先生や岩手県弁護士会と共同で、陸前高田市の仮設住宅住民調査を実施する計画を立てています。

(岩手大学 麦倉哲) [第3版(20110915)追加]

①氏名：仁平典宏 (にへいのりひろ)

②所属：法政大学社会学部、法政大学多摩ボランティアセンターセンター長

③連絡先：nihenori@hosei.ac.jp

④テーマ・キーワード：仮設住宅、NGO・NPO、ボランティア、cash for work

⑤調査対象地：岩手県陸前高田市

⑥内容：東京4大学・陸前高田地域再生支援研究プロジェクトの一員として、陸前高田市における全仮設住宅団地での生活課題調査(自治会長、住民への聞き取り)、集団移転支援など

⑦参照アドレス：調査に関してはまだありません

⑧添付ファイルなど：添付の通り住民向けに配布する速報版です。写真データは添付されていない未完成版ですが… [第3版(20110916)追加]

[過去メール1]

・夏の間、東大、明治、中央、法政の共同チームで、陸前高田の仮設住宅調査を行います。建築系、都市工学系、社会福祉系の研究者の共同チームです。

第1クールは明日4日から8日まで、
第2クールは16日から20日まで、
第3クールは9月9日から13日までの予定です。

第1クールでは、主に自治会長へのヒアリング調査、
第2・3クールでは、仮設住宅での質問紙調査を行います。

一応、岩手県の行う仮設住宅環境調査への協力という形を取っております。

(法政大学社会学部 仁平典宏) [第3版(20110915)追加]

[過去メール2]

昨日、陸前高田の仮設住宅での自治会長ヒアリングの第2クールを終え、53の仮設住宅団地の大部分での聞き取りを終了することができました。

かなりの問題が浮かび上がってきたと考えています。9月に行う第3クールでは、知見のフィードバックを中心として、依頼があった仮設住宅団地における住民談話会・座談会や、集団移転を希望する仮設住宅団地での支援、また、問題点に関する市や議会への報告・要請などを行う予定です。

明日から1週間は、今度は大学ボラセンの事業として、宮城県名取市・岩沼市での被災児童館支援、流出物・写真の洗浄保全活動などの、学生引率(ツアコン?)を行う予定です。

(法政大学 仁平典宏) [第3版(20110915)追加]

・所属するNPO法人(NPO法人教育支援グループEd.ベンチャー)を通して、学校支援・子ども支援を4月より毎週末継続的に実施。(陸前高田)

詳しくはHPにてご確認ください。

支援通信、最近2回分を添付。

(東京理科大学・清水睦美会員) [※8月3日第2版時の情報]

・奈良教育大学では、「学習補助等を中心とした教育復興支援活動」を行っています。

奈良教育大学では宮城教育大学教育復興支援センターと連携し、東日本大震災で被災した地域の学校等において、学習補助等を中心とした教育復興支援活動を行うこととし、ボランティアを募集・派遣。 <http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SECRETARY/higasinihondaisinsai.html>

(奈良教育大学・渡辺伸一会員) [※8月3日第2版時の情報]

○岩手県陸前高田市、宮城県石巻市

①氏名 島岡 哉 (しまおか はじめ)

②所属

仁愛大学人間学部コミュニケーション学科 講師

③連絡先

shimaoka@jindai.ac.jp

④研究領域・テーマ

地域社会学、メディア論

⑤支援地域

岩手県陸前高田市、宮城県石巻市

⑥内容

本学は、2学部4学科1研究科の小規模地方私立大学ゆえ、大学全体としてのボランティアセンターなどの設立・運営は人員的に難しい状態にあります。

そこで、以下の経緯によりまして、「NPO 法人ふくい災害ボランティアネット」と私個人との協働の形をとり、被災地への後方支援、社会調査教育としての後方支援ボランティア、および現地でのボランティアを推奨、実践しています。同 NPO は、日本海・三国沖ロシアタンカー重油流出事故(1997年)のVCで陣頭指揮を執った方を中心に設立された団体です。

3月12日夜～ 本学学生有志が、ソーシャルメディアと一部のローカルメディアに、支援物資募集情報を発信、拡散し、チェーンメール化するものもあらわれる。

3月13日 昼12:00～17:00 福井駅前にて支援物資および義援金受付。

同日、本学学生部学生生活課長でもある島岡が、災害支援 NPO の「NPO 法人ふくい災害ボランティアネット」との協議のうえ、協働体制を構築。

宮城県災害対策本部（石巻市に設置）のニーズに基づく支援物資梱包、輸送がスタート。

同日より、島岡がそのまま大学側責任者および窓口となり、

メディア対応・プレスリリースなど等、地域の方々への梱包ボランティア募集などを行う。

地元新聞、テレビも同日、報道。

3月14日 朝日新聞全国版 本学の名前を伏せた記事を大きく掲載。

地元新聞各紙および地元テレビ局（NHK 福井も含めて）、経緯を報道。

「地元 NPO と協力して被災地に送る」旨報道されたため、ソーシャルメディア上での情報錯綜は収まりを見せる。

3月15日 第1便を宮城県石巻市に向けて発送。義援金は、日本赤十字社福井県支部および

福井新聞社義援金受付窓口に全額預託。

3月16日 第1便発送報道。それを受けて、ソーシャルメディアを用いた情報が飛び交う。

3月13日の午後の6時間程度で集まった物資は34トン、義援金は385万円にのぼった。すべて被災地へ発送した。

それ以後、NPO 法人ふくい災害ボランティアネット、および半官半民組織「チームふくい」への支援と協働を、地域調査の実践および社会調査教育の一環として、継続している。

その後の経緯も踏まえ、この地域が持つローカルなネットワーク、災害支援団体が持つ広域ネットワークと、マス・ローカル・ソーシャルの3媒体の関連性を考察中です。

※詳細は、仁愛大学公式 HP にもアップされております。よろしければご覧ください。[第3版（20110915）追加]

○岩手県（高齢者施設職員の聞き取り調査）

岩手県被災地の高齢者施設職員の聞き取り調査を予定しております。

<宮城県>

- 「東日本大震災視察・交流記(6月10日～14日) ー農業復興の可能性を探るために」
(1)～(15)「東日本大震災(地震、津波、原発)からの農業復興のためのプラン(案)」
田村市、加美町、大崎市、東松島市、仙台市若林区。
(岩崎信彦会員) [※8月3日第2版時の情報]

○気仙沼市(十ヶ浜町、岩手県大槌町)

中京大学現代社会学部の少数の有志(教員と学生)による活動です。
主に社会学、社会福祉学、臨床心理学の教員とゼミが中心の「ほっかほっかプロジェクト」
です。

主な活動は、研究よりは、学生と共に関わる・学ぶ・何ができるかを考える・活動するな
どです。詳細に関しては下記サイトをご覧ください。

<https://sites.google.com/site/chukyofrc/>

そして、私のゼミの3年生を中心に、気仙沼市立「面瀬(おもせ)中学校」の体育館に
設置された避難所、その校庭に設営された仮設住宅に、5月末から6月初めにボランティ
アとして行ってきました。そのときの様子を、学生のきわめて不十分な報告ですが、下記
のHPで全文を読めますので、一度ご覧ください。なお、今月(9月)と来月(10月)に
も同じ気仙沼の面瀬地区に行く予定で計画が進んでいます。

<https://sites.google.com/site/chukyofrc/topic/2011nianduchengzeminarudongribendazhenzaiborantiahuodongbaogao>

そのほかにも「宮城県七ヶ浜町」

<https://sites.google.com/site/chukyofrc/topic/chengzemihuodongbaogao%E3%83%BBgonchengxianqikebangting5yue17ri21rizhengshirepotoban>

岩手県上閉伊郡大槌町

<https://sites.google.com/site/chukyofrc/topic/chengzemihuodongbaogaoyanshouxiandachuiting5yue10ri13ri> にも、私のゼミ生たちが行ってきています。体で対処する泥臭さ

が要求される場所もありましたが、いろいろな意味でいい勉強の機会を得ています。

(中京大学 成元哲) [第3版(20110915)追加]

○気仙沼市

・4月上旬より宮城県内の被災地の主要なボランティアセンターを「独立行政法人 防災科学技
術研究所」の災害情報ボランティアとして巡回し、5月上旬以降は、気仙沼市本吉地区の災害ボ
ランティアセンターの支援等を行いながら現地調査。

上毛新聞「視点 オピニオン21」干川執筆の記事に記載。

<http://www.raijin.com/news/kikaku/opinion2011/opinion20110622.html>

今後は、気仙沼市本吉地区の仮設住宅入居者の生活支援活動を「NPO法人 基盤地図情報活
用研究会」の理事として中央共同募金の活動支援資金の助成を受けて

(<http://www.akaihane.or.jp/organization/pdf/0715/01.pdf> の 7 ページの 4 3 に概要が記載)、2 年間を目処として行いながら、事例研究を行う。(大妻女子大学・干川剛史会員) [※8 月 3 日第 2 版時の情報]

・個人(本人と大学院生)で「気仙沼市災害ボランティアセンター」の活動に参加(5 月、7 月/気仙沼市内 及び大島でのボランティア) <http://msv3151.c-bosai.jp/group.php?gid=10247> (明治大学・藤田結子会員) [※8 月 3 日第 2 版時の情報]

○気仙沼市唐桑

大学内ではボランティアステーションの副所長をしております。本校ステーションは、今年の夏は主に気仙沼(唐桑)のほうで他の大学と連携しつつ、さまざまな種類のボランティアを行っております。

(東北学院大学 郭基煥) [第 3 版(20110915)追加]

○気仙沼市本吉

○南三陸町

・宮城県内での外国人支援ボランティア

ボランティアを兼ねて、南三陸町志津川でフィリピン系の外国人女性に対する職業訓練に参加。そこに参加する外国人子弟への学習支援も、継続的に行っている。

7 月 23 日から参加したので、本当に始まったばかり。ホームヘルパー 2 級や、後々の介護士の資格取得を目指した取り組みで、2 年間ほど継続する予定。

(東北大学大学院・坪田光平会員) [※8 月 3 日第 2 版時の情報]

○南三陸町、女川町、久米市、

(環境社会学会HPより)

立教大学・萩原です。

個人的活動・状況報告

3 月 13 日以降、宮城県内 NPO および国際 NGO 「難民を助ける会」を通して、支援物資を被災地に届ける活動開始。

4 月 26 日～29 日 気仙沼、北上町、牡鹿半島、亘理町に支援物資を届けながら、友人の四代目江戸家猫八師匠(気仙沼に従兄弟在住、3 月末安否確認)、二代目小猫さん親子と 11 か所慰問。宮城県庁時代(2001 年 3 月～2003 年 4 月)に「食育の里づくり」を実施した、北上町は、24 の集落のうち、4 つしか残らなかったというほどの壊滅状態。今後の復興にあたり、当時の北上町企画課長と連絡を取り合っている。

5 月初旬に、南三陸町からの避難者 1000 人を受け入れる、登米市役所男女共同参画担当者から、女性被災者(500 人弱)への支援物資の要請あり。男女共同参画推進委員を「えがおねっと」として組織化していただき、支援物資の受け入れ態勢を整え、女性被災者のニーズ調査を実施。それを基に大手、中小企業、日本家政学会を通して、支援物資を送付。6 月 3, 4, 5 日に登米市内 11 か所の避難所において、女性被災者を中心とした調査を「えがおねっと」とともに実施する予定。

今後の予定

登米市・鳴子町に南三陸町、女川町から避難している小中高生を対象とした学習支援のマッチング（都内教育系大学と教育委員会）を6月5日に予定。

登米市の担当者を招き、「災害と男女共同参画」のシンポジウムを小金井市で6月30日で開催予定。

研究予定：ジェンダーと災害をテーマにした、調査・研究を実施する予定。

萩原は常務理事を務める日本NPOセンターの支援活動については、HPをご参照ください。

<http://www.jnpoc.ne.jp>

[※8月3日第2版時の情報]

○南三陸町、大船渡、いわき市

あくまで一個人のボランティアとしてですが、柏市の地域活動の仲間たちとともにいわき市へがれき撤去などに3日間（6月上旬）、長年調査をしてきた上野の知人グループと南三陸町に日帰りで炊き出し（6月下旬）、「ふんぼろう東日本」経由で知り合った大船渡市のカキ養殖漁家の個人宅避難所へ家族で物資を届けに（7月中旬）、それぞれ赴きました。

（筑波大学 五十嵐 泰正）[第3版（20110915）追加]

○南三陸町歌津

○石巻市北上町

①氏名

宮内泰介

②所属

北海道大学

③連絡先

miyauchi@let.hokudai.ac.jp

④テーマ・キーワード

漁業・生業・地域組織・commons

生活復興

集団移転

復興への合意形成

ボランティア活動

⑤調査対象地

宮城県石巻市（とくに旧北上町地区）

⑥内容 もともとの旧北上町での調査は、commons、半栽培、自然資源管理、漁業、地域組織、地域環境史などの調査でした。震災後は、石巻市で活動しているNPO法人PARCIC

（<http://www.parcic.org/>）および自治体（石巻市北上総合支所）と連携して、石巻市での復興支援。PARCICの活動へ北海道大学から学生・院生をボランティア派遣（2011年7～9月）（ボランティアは主に在宅被災者支援）。旧北上町地区十三浜の漁業復興への支援をこ

れから PARCIC とともに行う予定。石巻市北上総合支所と地域住民による集団高台移転の合意形成へ側面から参画予定。

⑦参照アドレス

<http://miyal.let.hokudai.ac.jp>

[第3版(20110915)追加]

○石巻市雄勝

大学としては、千葉市、および宮城県石巻市雄勝地区において継続的ボランティア活動を行っております。(5月より炊き出し、海岸清掃、児童支援、仮設住宅への引っ越しなど)
(淑徳大学 松菌祐子)

[第3版(20110915)追加]

○女川町

○石巻市河北町・河南町

○石巻市牡鹿町

○石巻市(専修大学)

①氏名 大矢根 淳

②所属 専修大学人間科学部(社会学科)

③連絡先 044-911-1007(研究室直通) / 080-6616-8106(本人携帯電話)

④テーマ・キーワード 防災・減災 都市 漁村 地域社会 東北論 復興(複数可)

⑤調査対象地 宮城県石巻市(旧石巻市=市街地、旧牡鹿町=漁村:小湊浜、他)(複数可)

⑥内容 被災地復興過程研究

〈上記に若干の補足〉

1. 大学の取り組み

姉妹校が石巻市にあることから、震災直後より、石巻専修大学、専修大学間で連絡をとって動いてきました。

石巻専修大学が石巻市災害対応の重要な拠点の一つとなり、特に、現・石巻災害復興支援協議会の当初の立ち上げに深く関わってきていることは、みなさんご承知のとおり様々なメディアに取り上げられているとおりです。この辺りの経緯は、今週、菅磨志保先生(関西大学)が詳しく調査することになっています。この調査には共同通信も同行します。

石巻災害復興支援協議会のHP <http://gambappe.ecom-plat.jp/>

これまで専修大学で何度か研究会(シンポ)を開催してきました。これらの成果は年度末をメドに刊行予定です。

研究会:講師=木村拓郎氏

http://www.senshu-u.ac.jp/dbps_data/_material/_localhost/koho/nsweb/pdf/1106/nweb_2011_06_02.pdf

シンポジウム

http://www.senshu-u.ac.jp/dbps_data/_material_/localhost/koho/nsweb/pdf/1108/nweb_2011_08_06.pdf

石巻専修大学では、学内の「大学開放センター」「共創研究センター」で各種復興事業を展開中です。

大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの「減災カフェ」にならって、被災地域住民も自由に集い議論できる場が必要だとして、石巻専修大学共創センター内に「共生プラザ」を設置してもらいました。

http://www.isenshu-u.ac.jp/general/resarch_center/topics/20110822.html

2. 私個人の取り組み

大学内の学際的研究グループである「社会知性開発センター」内に設置されているORC「持続的発展に向けての社会関係資本の多様な構築：東アジアのコミュニティ、セキュリティ、市民文化の観点から」の「セキュリティ」班の中で、当震災復興関連の研究を行っております。<http://www.senshu-u.ac.jp/scapital/sympo.html>

また、早稲田大学・地域社会と危機管理研究所（浦野正樹代表）では、これまで通り、災害復興研究を続けています。<http://www.waseda.jp/prj-sustain/>

日本災害復興学会が10/8-9の2011大会@明治大学、で行われますが、今、その大会実行委員会で働いています。両日の各分科会の他、10/9午後には、沿岸市町の首長にお越しいただき、復興に関する公開シンポを開催します。

<http://f-gakkai.net/uploads/photos/51.pdf>

個人的な災害社会学の研究対象、フィールドは、現況では、上記、大学の研究実践を企画する立場上、石巻市となっています。

石巻市の被災と復旧・復興にむけての概況は以下の通りです。

<http://www.senshu-u.ac.jp/scapital/201107sympo/201107sympopanel.pdf>

石巻市復興企画の現状は、市街地偏重のきらいが否めません。従来の被災地復興⇨市街地復興公共事業の枠組みで展開をみています。ところが現実的には、牡鹿半島等に小さな数十の漁港を抱えるもう一つの顔が石巻市にはあり、そこに目を向けることが社会学としては重要だと考えています。ということで、その中の一つ、小浜浜に注目しています。復興研究は少なくとも10年、できれば30年は続ける必要があるので、現在、慎重に関係性の構築に取り組み始めているところです。

（専修大学 大矢根淳）

[第3版（20110915）追加]

○石巻市

(1)氏名：川中大輔

(2)所属：シチズンシップ共育企画

(3)連絡先：kwnk@nifty.com

(4) テーマ・キーワード

- ・ 市民参加の復興まちづくり
- ・ 若者の社会参加支援
- ・ シティズンシップ教育
- ・ コミュニティデザイン

(5) 調査対象地：宮城県石巻市

(6) 内容

地元 NPO とのパートナーシップのもと、

- ・ 現地中高生の社会参加活動の支援
- ・ 関西の高大生の被災地支援活動の支援
- ・ 復興まちづくりワークショップの実施支援
(ファシリテーター派遣等)

といった活動に取り組んでいます。

こうした実践を通じて、市民参加の復興まちづくりについて、その課題と今後の方向性等を検討しております。

(7) 参照アドレス：<http://active-citizen.jp/>

[第 3 版 (20110915) 追加]

- ・ 取り組み名：Smile Trade 10%

主な内容：毎週土曜日に山形から被災地（宮城県石巻市他）へ、日帰りのボランティアバスを出している。ボランティアは、山形大学と東北芸術工科大学の大学生・教職員、学外の一般の方、毎回 50 名程度。

実施主体：山形大学（山形大学エンロールメント・マネジメント部平尾清教授）と東北芸術工科大学の共同プロジェクト。

詳細：Smile Trade 10%のホームページがあるのでご覧ください。

<http://www.smiletrade10.com/engine/>

本メールの連絡者・坂無は、本プロジェクトの実施主体ではありません。これまで数回このボランティアバスや、個人で被災地へ行っているため、今回のメールの情報として適切か分かりませんが、連絡差し上げました。さらに詳しい情報必要でしたら、実施主体へつなぐことが可能ですので、ご連絡下さい。（山形大学・坂無淳会員）[※8月3日第2版時の情報]

○7月16日に専修大学で「社会関係資本研究センター」主催のシンポジウムが開催。「復旧・復興・再生への絆と連携」がテーマで、石巻市長や、復興構想会議委員の大西隆氏、大矢根淳氏らの講演・報告。専大が石巻にも大学を持っている関係。[※8月3日第2版時の情報]

・拓殖大学国際学部では、拓大ボランティアチームを結成し、宮城県石巻市に学生を派遣しています。当地を選んだのは石巻出身の被災学生がおり、かつ、彼が石巻災害復興支援協議会事務局でボランティアをしているためです。さらに国際学部の活動が引き金となり、大学としても学生派遣を行うようになりました。

派遣時期：

4月29日～5月5日 学生19名 引率 新田目夏実 連携団体 On the Road
7月7日～7月10日 学生23名 引率 新田目夏実 連携団体 市民ネット石巻
7月29日～8月6日 学生8名 引率者なし 連携団体 ピースボート、チーム神戸

この間の活動の一部は拓大国際学部のHPに報告されています。

<http://www.fis.takushoku-u.ac.jp/index.html>

東日本大震災復興支援

Web マガジン 世界は今 vol 12.

また、産経新聞7月24日朝刊に、一面を使い、大々的に報道されました

「ボランティアは究極の教育—現場体験から真実が見える」

(拓殖大学・新田目夏実会員) [※8月3日第2版時の情報]

・私自身、石巻高校出身で、同窓生には小中学校教員も多く誤報・デマ・無視に悩まされている面々も多くいます。

4月に、ようやく営業再開した「うどん屋さん」の隣でボランティアが「うどん炊き出し」をしていたときは啞然でした。

そのこと自体、社会的には研究対象かもしれませんが、両親が被災者でもあり、親類の多くを亡くした身としては、なかなか「自分で自分を研究しよう」という気にはなれませんが、どなたかが石巻を研究対象としたいときの情報提供者くらいには、なれると思います。

(農業・食品産業技術総合研究機構・飯坂正弘会員) [※8月3日第2版時の情報]

○仙台市、石巻市

①氏名 高橋嘉代 (たかはし かよ)

②所属 東北大学文学部阿部次郎記念館・福島学院大学

③連絡先 阿部次郎記念館 980-0813 仙台市青葉区米ヶ袋3-4-29 022-267-3284 (FAX 兼)

④テーマ・キーワード 都市祭礼 社会教育 震災・津波の記憶の共有 災害弱者としてのペット飼育者

⑤調査対象地 宮城県仙台市、宮城県石巻市

⑥内容

1) 震災発生前・発生後の仙台市の「どんと祭」祭礼運営組織について

2006年より、仙台市内全域で開催される小正月行事「どんと祭」のフィールドワークを継続しております。現在は震災前最後の祭となった本年1月実施データの分析中です。震災後祭の実施スタイルや祭の意味・意義の大きな変化が予想される中、来年次以降の動向について、運営組織の関係者の方々への聞き取り調査を進めております。

2) 震災後の社会教育施設のあり方について

2009年より仙台市の社会教育委員を務めております。社会教育施設が現在直面している課題を明確化することを目指し、昨年末から2月末まで市内の各社会教育施設の職員に対して調査票を配布するとともに各施設の職員に対してヒアリングを行ってまいりました。

調査結果のまとめに取りかかろうとした矢先に被災することとなり、現在は2月までの

調査のまとめと並行して震災後の社会教育施設の課題について現時点で可能な限りの範囲ではございますが明確化をめざしております。(報告書は後に公表されます。詳しくは仙台市社会教育委員の会議の Web ページをご確認下さい)

3) 震災・津波についての過去の知見の共有と蓄積をめざす読書会の運営

当方の主宰する読書会にて、関東大震災や明治・昭和三陸大津波といった過去の震災や津波についての文献をとりあげ、過去の知見の共有と蓄積、市民に対する啓蒙活動を目指しております。

4) 被災地寺院に対する聞き取り調査

石巻市を中心として、寺院に対する聞き取り調査を実施しております。現時点で対象としている寺院は「被災地」でありながら流出・浸水を免れた内陸部の寺院で、浸水地域の寺院のバックアップや犠牲者の供養等について如何に対応しているかについて聞き取り調査を行っています。

5) 災害弱者としてのペット飼育者のネットワーク形成・グリーフワークについての勉強会

この度の震災における課題の一つが被災したペット・ペット飼育者の問題です。そこで仙台市内において震災にあたってペット飼育者たちがいかにして物品・情報を収集して現状に対応して行ったか、そのネットワーク形成について聞き取り調査を行っております。並行して、震災によってペットを失った人々のグリーフワークについての勉強会も進めております。

⑦参照アドレス

workscr22s@hotmail.com

<http://www.city.sendai.jp/kyouiku/syougaku/discussion/syakaikyouikuiinkai.html>

(仙台市社会教育委員の会議)

[第3版(20110915)追加]

○東松島市(矢本、鳴瀬)

・東松島市の消防団活動について調査を実施。(後藤一蔵会員) [※8月3日第2版時の情報]

○松島町

○塩竈市

○七ヶ浜町

○多賀城市

○仙台市

・震災後、被災地(仙台市)におけるホームレスの動向に関する調査・研究をおこない、震災後は、被災者支援もおこなってきた。

震災後の路上生活者の状況について「ホームレスと社会」に論文を寄稿(2011年11月掲載予定)、日本社会学会で報告予定。東北社会学会でも震災後のNPOの被災者支援の取組みを報告。(東北大学大学院・新田貴之会員) [※8月3日第2版時の情報]

・社会調査の実施について

私を含む研究グループは、立教大学内の資金により、仙台市内にて無作為抽出を行い統

計的社会調査を実施予定です。対象者 2100 人に対して、経済的困難や、今後の生活への不安感、ストレスなどについて、質問項目を設けます。避難所などピンポイントでなく、仙台市全域における人々の意識や行動について調査する予定です。11月の調査に向けて準備中です。

なお立教大学では、以下のような制度を設けて研究助成をしています。

http://www.rikkyo.ac.jp/research/initiative/aid/interior/SFR_shinsai/2011_saitaku/

(立教大学 村瀬 洋一) [第3版(20110916)追加]

○日本社会学会大会の自由報告部会「災害」

「震災時における野宿者の包摂／排除の研究——仙台市の事例として——」(東北大学・新田貴之会員) [※8月3日第2版時の情報]

・仙台市内小学校でのフィールドワーク (2010年度から継続中)

学校名は伏せますが、被災した別の小学校と校舎を共同で使用しています。

私はそこに在籍しているフィリピン系ニューカマーを入り込みで支援していたのですが、そのときちょうど震災と重なり、フィールドワーク中にフィールドが避難所になりました。

現在では避難所が終了したため、ほぼ復旧しつつある状況といえます。

(東北大学大学院・坪田光平会員) [※8月3日第2版時の情報]

・被災地の仙台を本拠地とするプロバスケットボールbjリーグの仙台89ersに金銭的な寄付をした。(筑波大学・高橋義雄会員) [※8月3日第2版時の情報]

○名取市

現在、尚絅学院大学では、2年生の「社会調査(地域活性構想)実習」として、尚絅学院大学がある名取市の震災の被害の実態と復興に向けての地域調査に、後期から取り組むことになりました。3月には報告書を発刊する予定です。

まだ具体的なテーマは詰められていませんが、対象については沿岸部・漁港・ビジネス地域・交通網に関する震災被害の実態と、地域住民に対する震災・防災に関する意識調査(量的調査)を予定しております。

(尚絅学院大学 内田龍史)

[第3版(20110915)追加]

○岩沼市

○亶理町

5月中旬に聞き取り(首都大学東京・山下祐介会員) [※8月3日第2版時の情報]

○山元町

4月初めより宮城県亶理郡山元町にて、学会つながりの先輩と共にボランティアのプロジェクトを立ち上げ、町役場と協力しながらITを使った支援活動を行ってきました。山元町

に常駐する中で被災者の方々からのニーズを受けて現在とりくんでいるのが、津波で流された写真を IT で救済するという支援活動「思い出サルベージアルバム・オンライン」です。

「思い出サルベージアルバム・オンライン」は、山元町にて持ち主不明となった写真約 70 万枚を洗浄してすべてデジタル化し、IT を駆使して持ち主への返却や、地域の記憶の共有を目指すプロジェクトです。現在は全ての写真の洗浄とデジタル化を終え、町役場の協力で写真の展示・返却をしつつ、ニフティ株式会社の協力の元でクラウド上に被災写真のアーカイブを構築しています。

写真救済という形での支援は、今回の震災と津波によって発生した想定外のニーズでした。写真というと、間接的な支援に思えるかもしれませんが、しかし、家を流された町のみなさんの多くが探すのは、津波で失われた家族の思い出です。現在は町役場の近くにある展示場にて、毎日泣き笑いしつつ、町のみなさんの声を聞いています。

①氏名：溝口佑爾（みぞぐち ゆうじ）

②所属：京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程（日本学術振興会特別研究員 DC）

③連絡先：egofuisti@gmail.com 090-6874-1873

④テーマ・キーワード：復興ボランティア IT Visual Sociology 集合的記憶

⑤調査対象地：宮城県亘理郡山元町

⑥内容

津波により流された写真を IT を用いて救済するプロジェクト「思い出サルベージアルバム・オンライン」に関する研究。

第 84 回日本社会学会では、一日目に簡単な報告をさせていただきます。

9/17 一般研究報告：デジタルメディアが救う「記憶」とは何か？——東日本大震災「思い出サルベージ」プロジェクトの成果報告—— 京都大学 溝口 佑爾

また、すでに終わりましたが、

2011 年度日本社会情報学会合同研究大会@静岡大学浜松キャンパス

9/11 ワークショップ 4「思い出サルベージアルバム・オンライン」

でも報告を行いました。

また、これまでの報道は HP に載っています。

<http://jsis-bjk.cocolog-nifty.com/media/index.html#skip1>

⑦参照アドレス

JSIS-BJK 災害情報支援チーム <http://jsis-bjk.cocolog-nifty.com/>

活動ブログ <http://jsis-bjk.cocolog-nifty.com/blog/>

活動紹介動画 <http://www.youtube.com/watch?v=AZXfebJ57kM>

[第 3 版 (20110915) 追加]

○茨城県

(1)氏名：宝田惇史

(2)所属：東京大学大学院新領域創成科学研究科

(3)連絡先：atsutaka@mx4.ttcn.ne.jp

主な調査地は、原発事故の影響（観光客減少など）で苦しんでいる茨城県です。

茨城県にて活動されている方がいらっしゃいましたら、情報交換させていただければ

幸いです。

(4) テーマ・キーワード

- ・ 市民参加の復興まちづくり
- ・ 社会資本整備の持続可能性

(5) 調査対象地：茨城県ひたちなか市

(6) 内容

ひたちなか海浜鉄道株式会社のご協力のもと、京都大学の交通計画研究室やNPO（おらが湊鉄道応援団、全国鉄道利用者会議）と連携し、調査やイベント等を実施。（宝田は、プロジェクトの協力者という位置づけ）

国への提言活動や様々な分野の研究者、市民活動家への情報発信も模索。

特に、被災した鉄道の復旧復興における制度上の課題、鉄道の運休による沿線地域の人の流動の変化を中心に調査中。

(7) 参照アドレス：<http://railway-s.net/>

(8) 添付ファイルなど：特になし

[第3版（20110915）追加]

○千葉県

・ 淑徳大学総合福祉学部人間社会学科の 社会調査実習科目「フィールドワーク」の調査テーマを今年度は「千葉市における防災意識と防災行動に関する調査」に設定しました。前期中に調査票を作成し、千葉市においてサンプリングを行っております。（9月上旬発送）（科目担当は野田陽子教授と私の2名です）

この授業では、昨年度「防犯意識と防犯行動」を扱っており、震災がなくても防災をとりあげようとは考えておりました。千葉市も液状化等被災地であり、学生の実習調査としてはかなりハードなものになっております。

ごく小さい取り組みですが、学生も関心をもって取り組んでおります。

（淑徳大学 松菌祐子）

[第3版（20110915）追加]

・ 明治大学震災復興支援センター『浦安ボランティア活動拠点』

<http://www.meiji.ac.jp/koho/desukara/university/2011/20110609urayasu.html>

（明治大学・藤田結子会員）[※8月3日第2版時の情報]

○全般

・ 被害状況調査

・ 所属は理学部だが、災害社会学、地域社会学が専門。奥尻島の復興調査、有珠山の復興調査、災害文化研究、防災教育の実践を行っている。

3月11日以降随時 奥尻島の災害対応・復興過程に関する問い合わせ対応

4月29日～5月2日 宮城県の沿岸部予備調査

5月1日 「若手防災研究者の会」勉強会に参加（東北大学）

5月22日 リアス・アークミュージアム（気仙沼市）学芸員訪問，陸前高田市，大船渡市予備

調査

5月24日 大船渡市復興局を訪問，陸前高田市博物館資料の文化財レスキューに参加
5月31日 南三陸町「震災復興計画策定研修会」にて，奥尻町の復興過程を報告
8月8日 気仙法人会 地震・津波に関する講演会（所属組織の地震・津波の専門家による），
参加者との意見交換
8月9日-10日 日本災害復興学会の一員として，被災地トークイベントに出席予定
この他，北海道内の津波防災，防災教育に関する支援活動。
（北大地震火山研究観測センター・定池祐季会員）[※8月3日第2版時の情報]

・関西学院大学先端社会研究所では、8月21日-23日の日程で、福島県郡山～宮城県仙台～岩手県一関・花巻、各地域を横断する広域調査、都市部および沿岸部について被害状況を視察。（関西学院大学 雪村まゆみ）

[第3版（20110915）追加]

・アーカイブス

「東日本大震災・災害復興まるごとデジタルアーカイブス」（プロジェクト略称：311まるごとアーカイブス）

詳細は、<http://311archives.jp/> の趣意書、実施計画書等をご覧ください。

趣意書

<http://311archives.jp/fbox.php?eid=10632>

実施計画書

<http://311archives.jp/index.php?gid=10123>

世話人は吉見俊哉会員

（独立行政法人 防災科学技術研究所・三浦伸也会員）[※8月3日第2版時の情報]

・災害情報ボランティア

4月から毎月、被災地の宮城県内に行き、4月中は、「防災科学技術研究所」の「災害情報ボランティア」として活動に参加しながら参与観察を行い、宮城県内の主な災害ボランティアセンター（宮城県・山元町災害・亘理町一・利府町・東松島市・石巻市・女川町・南三陸町・気仙沼市・気仙沼市本吉支所）の実態把握を行いました。

5月からは、雲仙普賢岳火山災害から被災地支援を続けている災害ボランティアのベテラン経験者と連携して、気仙沼市災害ボランティアセンター本吉支所を拠点とて、災害復旧活動と気仙沼市本吉地区の仮設住宅入居者に対する生活支援活動の実態調査を行っています。

それと並行して、4月下旬から毎月、南三陸町で開催されている「南三陸町復興（復興）市」に物品販売ボランティアとして参加しながら、参与観察を通じて南三陸町の商店街を中心とした復興状況の実態把握を行っています。

（大妻女子大学 干川剛史）

[第3版（20110915）追加]

・現地写真提供

飯坂正弘（いいざか・ただひろ）と申します。

現在はつくばの農研機構・中央農業研究センター勤務ですが、3年前まで岩手県盛岡市にある、東北農業研究センターに勤務し、その前は、近畿中国四国農業研究センターに勤務しており、

阪神・淡路大震災時にも、緊急食料供給調査等で神戸、西宮、宝塚、北淡などに入っておりました。なお当時の報告書は、データが古いため絶版にしました。

7月25日に、三井物産環境基金の2011年度東日本大震災復興助成（研究助成）代表者：麦倉哲岩手大教授を受けることとなりましたが、それを見越し、また本籍が石巻市（和潤）で宮城県石巻高校出身でもある私、飯坂は4月より、帰省ごとに三陸沿岸の巡検をおこなっておりました。研究グループでも、旅費を持ち寄り6月から岩手三陸に行っておりました。

それらの写真の一部を、Skydrive で一般公開しております。URL ですが、

<https://skydrive.live.com/?cid=218563E3E42A4799&id=218563E3E42A4799%21623>

（2010年夏と、2011年春の、旧北上川河口の写真を石巻の日和山から）

<https://skydrive.live.com/?cid=218563E3E42A4799&id=218563E3E42A4799%21105>

（2011年4月下旬、最初は仙台駅前、その後涌谷を出発し、石巻線沿線と

石巻の旧市街地、湊、渡波方面から再度国道108号線沿いに小牛田へ）

<https://skydrive.live.com/?cid=218563E3E42A4799&id=218563E3E42A4799%21477#cid=218563E3E42A4799&id=218563E3E42A4799%21453>

（2011年5月中旬、栗原市と大崎市東部、遠田郡美里町）

<https://skydrive.live.com/?cid=218563E3E42A4799&id=218563E3E42A4799%21502>

（2011年6月上旬、岩手・宮古→山田町大浦→陸中山田駅周辺→船越→大槌→

吉里吉里→釜石→大船渡→陸前高田→宮城・気仙沼→翌日は宮古→

三陸鉄道で田老→路線バスを乗り継いで宮古→道の駅山田から臨時バス

→再度大槌経由で釜石→釜石線で遠野まで）

です。IE と FireFox 最新版では、閲覧可能を確認しておりますが、もし閲覧できないときは、ML ではなく個人宛でメールを下さい。

ダウンロードも可能ですが、もし引用される際は「撮影：飯坂正弘（農研機構）」と付けて下さい。

（農研機構・中央農業研究センター 飯坂正弘）8月4日

[第3版（20110915）追加]

○調査地未定

震災復興にあたり、増税というふうを考えるだけでなく、雇用創出、社会参画を重視したい。この視点から、現在、東北地方について、調査を準備中です。

（東洋大学 原山哲）

[第3版（20110915）追加]

< 2. 地域別②——原発事故関連 >

< 福島県 >

・環境社会学会

例会でワークショップを実施。震災原発事故特別委員会設置。(1) 避難者追跡調査の研究者ネットワーク、(2) 原子力問題年表・資料集。[※8月3日第2版時の情報]

・立命館大学生存学センターでは、「災害と障害者・病者」についてウェブ上での情報提供、被災地障がい者支援センターふくしまとの連携、などに取り組んでおります。

詳細につきましては、下記のウェブサイトなどをご確認いただけます。

災害と障害者・病者：東日本大震災 <http://www.arsvi.com/d/d10.htm>

東日本大震災：「生存学」関連 <http://www.arsvi.com/d/d102011c.htm>

(立命館大学 PD・渡辺克典会員 上記取り組みの窓口担当) [※8月3日第2版時の情報]

・〈福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト緊急報告会〉

<http://cmps.utsunomiya-u.ac.jp/news/news2.html>

日時：2011年7月13日(水) 12時50分～16時00分

場所：宇都宮大学峰キャンパス 共通教育B棟 1223教室

〈基調講演〉

「福島県における子どもたちの状況報告と対策—地域社会と不安のあいだで」

福島大学 災害復興研究所 放射能汚染による「生活リスク」研究チーム

中川伸二(教授)、西崎伸子(准教授)

〈報告〉—福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト報告

「栃木における福島から乳幼児・妊産婦さんのニーズと取り巻く環境」

附属多文化公共圏センター員・福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト事務局長 阪本公美子(准教授)

「福島からのお母さんとお子さんのニーズに応じて—学生ボランティアの立場から」

FnnnP Jr. 宇都宮大学国際学部学生 須田千温、濱田清貴、阿部有沙子他

「新潟における福島から乳幼児・妊産婦さんのニーズと取り巻く環境」

宇都宮大学国際学部・福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト新潟チーム代表 高橋若菜(准教授)

〈ディスカッション〉

司 会：重田康博(センター長・プロジェクト代表)

パネリスト：西崎伸子、阪本公美子、高橋若菜、須田千温

コメンテーター：陣内雄次、田口卓臣、スエヨシ・アナ、モリソン・バーバラ

主 催：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト(通称：FSP)(事務局：宇都宮大学) [※8月3日第2版時の情報]

○新地町

○相馬市

○南相馬市

○飯舘村

一橋大学大学院・佐藤彰彦会員が震災前から調査。震災後も調査継続。[※8月3日第2版時の情報]

○浪江町

○双葉町

東京大学大学院・原田峻会員が、避難所となった、さいたまスーパーアリーナを調査 [※8月3日第2版時の情報]

○大熊町

○富岡町・川内村

首都大学東京大学院・須永将史会員、吉田耕平会員らが、避難所となったビッグパレット福島を支援、調査。東日本大震災・福島第一原発事故関連の避難者支援に関わる社会学研究者のネットワークと、富岡町との連携調査を模索中。[※8月3日第2版時の情報]

○檜葉町

○広野町

○いわき市

- ・ボランティア活動、および報告会の開催
第2回 東日本大震災ボランティア活動報告会
～支援ニーズの変化とボランティア～
日時：2011年7月28日（木）18：10～19：30
会場：明星大学ボランティアセンター（大学会館2階）
（明星大学・渡戸一郎会員）[※8月3日第2版時の情報]

・私の出身は福島県いわき市です。兄といとこが被災者です。一時は避難所におりました。いとこはいわき市で障害者福祉施設を運営しておりました。しかし地震のため運営が困難になったため、三月から四月にかけて募金活動を行いました。その後も受け付けています。叔母その他の親戚はおなじ福島県の南相馬市に住んでいます。地震で死亡した親戚の葬儀のため、先月南相馬市に行ってきました。また私のゼミ生の弟が津波で死亡しました。

震災以降いろいろな事を考えましたが、授業の中で積極的に災害について取り上げていきます。仕事のやり方もすっかり変わってしまいました。フェイスブック、twitterの利用・活用、ノートブック PC から iPad への以降、クラウドコンピューティングなど。

（拓殖大学・新田目夏実会員）[※8月3日第2版時の情報]

- ・いわき明星大学に檜葉町役場

○原発避難者調査

- ①氏名 丹波史紀 橋本摂子(会員) 加藤真義(会員)

②所属 福島大学行政政策学類

③連絡先 mkato@ads.fukushima-u.ac.jp

④テーマ・キーワード 避難行動 復興 地域社会

⑤調査対象地 福島県双葉郡 8 町村(浪江町、双葉町、大熊町、葛尾村、富岡町、楡葉町、広野町、川内村)

⑥内容

福島大学災害復興研究所が、関西学院大学災害復興制度研究所および 8 町村自治体と合同で実施。

被災・避難状況、現在の生活上のニーズ、今後の生活展望、行政への要望など。

自治体の広報誌発送の際に同封し郵送。

9 月 30 日締め切りでの返送を依頼。

[第 3 版 (20110915) 追加]

・調査主体：福島大学災害復興研究所および上智大学グローバル・コンサーン研究所

調査名：旧赤坂プリンスホテル利用者への簡易的質問紙調査および聞き取り調査

調査期間：6 月中旬～下旬

概要：福島大学、上智大学、清泉女子大学の研究者と浜本が 4 名で実施（浜本以外は福祉行政、人類学などを専門としており、社会学ではない）。

施設を運営している東京都の協力を得たものの、さまざまな制約があり、質問紙調査の対象者選択は厳密な全数調査あるいはサンプリング調査になっていないが（また質問項目も十分練られていないが）、6 月下旬の赤プリ退去期限までに 70 サンプルを回収。避難経路、不安内容、知りたい情報、退去期限後の予定などについて 15 程度の問を設けた。

現在、データクリーニングをしており、まもなく単純集計が出る予定。聞き取り調査は約 15 名の方に実施済みで、赤プリ退去後の生活を追跡調査する計画である。赤プリ利用者は、いわき市など 30 キロ圏外の自主避難者が大半を占めており、小さい子どもを抱えた母親が、地元に残る夫家族と離れて、母子のみで避難しているケースが多いのが特徴的である。こうした母親は、「福島を見捨てている」という後ろめたさがある一方で、「逃げられるのなら子供のために逃げていたほうがよい」という狭間でジレンマ状況にあることがこれまでに把握されている。

今後、福島大学災害復興研究所が県外避難者を対象とする、大がかりな調査計画をもっているようであり、それらの動向と多少なりとも連携しつつ、今後の調査計画を模索しているところである。（名古屋市立大学・浜本篤史会員）[※8 月 3 日第 2 版時の情報]

・ 1) 広域避難者支援の組織化：愛知県を主な事例として

2) 被災者の「二重ローン問題」に関する法制化過程

方法 参与観察（アクション・リサーチ）

調査上の立場 反貧困ネットワークあいち事務局メンバー（←主にテーマ 1）に関して）

助成金 科研費「若手研究 A」※（期間 2009 年度～2012 年度）

※ 研究課題：「過重債務問題の予防と解決に向けた支援者ネットワーク形成に関する国際比較研究」

（概要ファイル有り）（金城学院大学・大山小夜）[※8 月 3 日第 2 版時の情報]

・東日本大震災・福島第一原発事故関連の避難者支援に関わる社会学研究者のネットワーク

本ネットワークは環境社会学会会員を中心に、本学会のワークショップを経て立ち上げられた。今回の東日本大震災による津波被害・福島第一原発事故避難者の把握・支援について情報交換を行うとともに、社会学者の協力・共同作業を模索するもの。

第1回会合 2011年6月29日 法政大学ボアソナードタワー

「双葉郡関係者（町村・町村民）への訪問の課題と現状」首都大学東京 吉田耕平

第2回会合 2011年7月27日 法政大学ボアソナードタワー（予定）

1. 飯館村の現状と今後の問題について 一橋大学 佐藤彰彦
2. さいたまスーパーアリーナ避難者受け入れとその後の経過について 東京大学 原田峻
3. 富岡町の現状と避難者調査の可能性について
富岡町役場総務課長補佐 菅野利行
福島県文化スポーツ局生涯学習課 天野和彦
中越防災安全推進機構 復興デザインセンター長 稲垣文彦
首都大学東京 須永将史

（ネットワーク参加者の活動状況あり）（首都大学東京・山下祐介会員）[※8月3日第2版時の情報]

○福島県郡山市

①氏名 渡辺克典

②所属

立命館大学

③連絡先

k-wtnb@fc.ritsumei.ac.jp

④テーマ・キーワード

避難行動

障害者（※病者・障害者）

原子力発電一般

福島第一原発事故

⑤調査対象地

福島県郡山市 ほか。

⑥内容

- 1) JDF被災地障がい者支援センターふくしまにおける援助実践活動
- 2) 病者・障害者の被災状況・避難問題に関する調査・提言
- 3) 「災害と障害者・病者：東日本大震災」に関する情報提供

<http://www.arsvi.com/d/d10.htm>

- 4) 福島第一原発事故に関する情報提供

<http://www.arsvi.com/d/npp-f.htm>

など。

⑦参照アドレス

<http://www.arsvi.com/d/d10.htm>

[第3版(20110915)追加]

○いわき市

専門は民俗学で、國學院大學名誉教授・倉石忠彦先生に師事しております。日本社会学会は有末賢氏のご紹介で入会いたしました。

今回の震災には授業中に遭遇いたしました。その後のいわき市の状況について、震災当日から日記を書き続けています。

夜な夜な繁華街に出かけ、店の客や主人に話しかけたり、知人を介して人を紹介してもらい、さまざまな情報収集をしております。

メディアで報道されない情報、いわき市の特殊な現況などをいろいろ書き綴っております。

私、いわき市に16年間在住しておりますが、マチはかつてない活況を呈しております。

「原発事故景気」とでも申しましょうか、皮肉にもいわき市はかつての「炭鉱景気」を想起させる状況です。

これは一例にしか過ぎません。これまでの日本にはない新たな「被爆差別」や、警戒区域からの被災者と在来市民の衝突、治安の悪化など、問題は山積しております。

震災被害者・被爆者である私が、被災地の調査を行っていることに民俗学的価値があるものと考えております。

しかし、日本民俗学会の動きは鈍く、また「いわゆる民俗学」として、現在自分が持っている情報をどのように扱ってよいのか困惑しております。

社会学は全くの門外漢で、なにかを発信したいのですが、どうしてよいか分からずに日々を過ごしております。

皆様のお役に立てる情報がございましたら、ご提供いたしますのでお知らせください。

また、「こういうことを調査してくれ」というご要望もお受けいたします。

(福島県いわき市磐城緑蔭中学校・高等学校 石井克玖)

[第3版(20110915)追加]

○県外避難者・新潟県

東日本大震災と原発事故により、福島第一原発周辺の住民の多くが故郷を離れ、他県での避難生活を余儀なくされている。とくに隣県である新潟県は、もっとも多くの避難者を受け入れてきた。筆者は、これまであまり例のない広域避難者の受け入れに際して、近年の中越地震・中越沖地震の被災経験が活かされている点に着目し、県内の各自治体や民間、そして一部では避難者自身を対象として聞き取り調査を行っている。今後も予想される災害に備えるための経験知の蓄積が、その目的である。

(新潟大学 松井)

[第3版(20110915)追加]

○県外避難者・埼玉県

①氏名 原田 峻

②所属 東京大学大学院

③連絡先 harashun84@gmail.com

④テーマ・キーワード

避難行動、都市、地域社会、ボランティア、支援のネットワーク

⑤調査対象地

埼玉県（さいたま市、加須市、ふじみ野市、越谷市、など）

⑥内容

・3月に、双葉町民ら2,500名が避難した「さいたまスーパーアリーナ」のボランティアに参加した。その後も、同所での支援について、関係者への継続的な聞き取りをおこなっている。

・4月以降は、双葉町民が移転した旧県立騎西高校への支援、埼玉県内の避難者と支援者をつなぐ交流会・お祭り等の企画、行政と支援団体の連絡協議会、などに関わっている。

・10月から、埼玉県内における自主避難者への支援の実態を把握するため、行政、支援団体、避難者の互助組織などに聞き取りを実施する予定である。

⑦参照アドレス 特になし

⑧添付ファイルなど 特になし

[第3版(20110915)追加]

○県外避難者・静岡県

①氏名 山本早苗

②所属 富士常葉大学 社会環境学部

③連絡先

メール：syamamoto@fuji-tokoha-u.ac.jp

電話：0545-37-2141（研究室直通）

FAX：0545-36-2651（共用）

④テーマ・キーワード 都市、農村、地域社会、復興、子ども・教育

⑤調査対象地 静岡県伊東市、三島市

⑥内容：伊東市では、福島県富岡町から静岡県内に避難されている方がたへのニーズ調査を行う。三島市では、NPO グラウンドワーク三島による、被災児童・親子向けの支援プログラムにボランティア参加、簡単な聞き取り調査を行う

<http://www.gwmishima.jp/modules/information/index.php?&cid=51>

[第3版(20110915)追加]

○県外避難者・岡山県

①氏名：宝田惇史

②所属：東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程

③連絡先：atsutaka@mx4.ttcn.ne.jp

④テーマ・キーワード：避難者と受け入れ地域・支援するボランティア団体
東日本大震災の意味

⑤調査対象地：岡山県岡山市、和気町など

⑥内容：岡山県にて東日本大震災による避難者（おもに関東からの原発避難者）の受け入

れ、支援活動を行っているボランティアネットワーク「おいでんせえ岡山」の事例を通して、今回の震災の特性や遠隔地の人々の意識・行動に与えた意味を調査しています。

⑦参照アドレス：<http://www.oidense-okayama.me/>

(関連サイトへのリンクもここから)

[第3版(20110915)追加]

○県外避難者・沖縄県

①氏名：後藤範章

②所属：日本大学文理学部

③連絡先：ngotoh@chs.nihon-u.ac.jp

④テーマ・キーワード：「越境」する被災者・避難者と受け入れ地域・支援するボランティア団体

⑤調査対象地：沖縄県石垣島(予定)

⑥内容：ご存知の方もおられると思いますが、沖縄県の石垣島で「ちむぐる」というボランティア団体(下にウェブサイトのURLを掲げます)が、東日本大震災の被災者および避難者を支援する活動を展開しており、被災地を中心に東日本全域から石垣まで「避難」する多くの人々を実際に受け入れ、現地で様々な生活支援に取り組んでいます。FMいしがきサンサンラジオで毎週土曜日の夜10-11時に、「YUIYUIちむぐる」という避難者支援番組も放送しています(「ちむぐる」のラジオチームが担当)。被災地や関東からはるか遠く離れた日本の西端の離島まで、いくつもの境界を飛び越えて避難し全く新しい生活を始める人々と、彼ら/彼女らを受け入れ支援するボランティア団体と地元の地域社会。この団体に、私の学部ゼミの卒業生がメンバーとして関わっており(彼もまた「越境者」の1人)、詳しい情報も得られるので、近い将来、ここで何らかの(共同)調査を実現することができれば、と考えております。

⑦参照アドレス：「ちむぐる」<http://www.chimugukuru.net/>

⑧添付ファイルなど：特になし

[第3版(20110915)追加]

○柏市

長年居住し、地域活動にもかかわっている柏市がいわゆる放射能のホットスポットとなったことを受けて、農家・飲食店・流通・消費者・測定業者を一堂に会して、「放射能時代の地産地消」を協働的に考えて対策を実行していくことを目的とした「安全・安心の柏産柏消円卓会議」を企画し、事務局を務めています。詳細は、私が書きました以下の文章、<http://www.streetbreakers.org/2011action/kashisan-kashish>

ならびに、この件を告知しましたツイートを下に添付しますので、参考にいただければ幸いです。本件は、2回の会議を経て一定の方向性が見えてきた去る8月25日に記者会見をし、読売新聞千葉版等に取り上げていただきました。

【拡散希望】以前から関わっているストブレが事務局を務めている「安全・安心の柏産柏消」円卓会議 <http://www.streetbreakers.org/2011action/kashisan-kashish> 6月から水

面下で準備してきたものですが、紆余曲折と2回の会議を経て立場の違いを越えた方向性が見えてきましたので、昨日記者会見させていただきました

農家・流通・飲食店・住民と、これだけ多様な人たちが一つのテーブルに集まって知恵を出し合っていこうという試みは全国的にもあまり聞かないとのこと、記者さんの関心も高く、各社集まっていただけでした。何かと評判よろしくない柏でこんな取り組みが始まったこと、広く知っていただけるといいな

低線量被曝の影響が専門家の間でも定説がない以上、本当に信頼できる安心感が開かれた住民参加のもとに「社会で確立する」べきもの。そのためにまず、立場の違う人たちが顔の見える信頼関係をあらためて築き直すことが必要だという理念に共感してくださった方たちが、この円卓会議に集まっています

柏ママの運動を牽引してきた @pino1982 さんや、有機農家の @niramonjun さん、そして市内で放射能測定器レンタルスペースをオープンする @BqCenter さんをはじめ、農家4軒、レストラン2軒、スーパー、地元野菜直売所のかしわでさん等々とても力強い方たちが！

柏市も農産物の放射線測定を始めて1か月たち、幸い大多数はいい結果が出ています。<http://bit.ly/oBi jZF> 私たちはこれと対立するつもりはないですが、行政からの一方的発表には警戒してしまう空気もある中で、別のアプローチで補完的な情報発信ができればいいなと

ただ円卓会議の最終ゴールが放射能問題とは考えてません。住宅地の中に農地が残る柏で、生産者と消費者がコミュニケーション取って信頼関係を築き、安全でおいしいジモト野菜を媒介に地域への愛着を高めていくこと。そのためにはまず、降りかかったセシウムを避けて通れないから皆で何とかしようよと

変な言い方ですが、この問題を機にかつてなく食や農への関心が高まっていることを奇貨として、広く市民にジモトの農業への注目まで繋げていければいいなと。大きく出れば、「放射能時代のC S A」に向けた試みかもしれませんね。まだ小さな動きですが、やれるところから模索していきます！

(筑波大学 五十嵐 泰正)

[第3版(20110915)追加]

○茨城県

・筑波大学の対応

<http://www.tsukuba.ac.jp/disaster0311/index.html>

「筑波大学東日本大震災復興支援プログラム」

福島原子力発電所の事故による放射性物質関係情報・対応等（筑波大学・高橋義雄会員）[※8月3日第2版時の情報]

○群馬県

・<日本臨床発達心理士会>日本臨床発達心理士会群馬支部事務局長として、群馬県内に避難してこられた被災者の方々の「心理的サポート」。被災者の方が手にとってわかりやすいような心理学的な情報を記したパンフレットも作成、配布。実際には直接的な支援ではなく、被災者の方々に対して休みなく支援し続ける方々に対する「心理的サポート」（高崎健康福祉大学・宮内洋会

員) [※8月3日第2版時の情報]

< 3. テーマ別 >

○外国人

6月半ばから震災を外国人がどのように経験したか、という点について聞き取り調査を行っております。避難の方法や、帰国の実施、ボランティアへの参加、対日イメージの変化など、包括的な聞き取りです。調査対象者はほぼ宮城県全域に渡っており、在日コリアン、留学生、実習生、国際結婚した外国人女性などです。現在は名古屋大学の西原和久先生、東北大学の三名の助教の方も参加し、各々にテーマを決めて、調査をしているところです。つい先ごろ、東北学院大学にてはじめての研究会／報告会を行ったところです。

(東北学院大学 郭基煥)

[第3版(20110915)追加]

①氏名 郭基煥

②所属 東北学院大学

③連絡先 022-721-3290 kakuk@tscc.tohoku-gakuin.ac.jp

④テーマ・キーワード 避難行動、外国人、噂・流言

⑤調査対象地 なし

⑥内容 外国人が震災をどのように経験したか、ということについて聞き取りを中心に包括的に調査しています。特に1) 一時帰国を実施したかどうか、その際にどのような葛藤があったか、2) 外国人犯罪の噂をどのように受け止めたか、3) 外国人への支援体制、4) 情報の収集方法、5) 相互のネットワークがどのように有効に働いたか／働かなかったか、6) 日本に対するイメージの変化、7) ボランティア活動への参加及びその動機、などです。地域は宮城県を中心に行っています。

⑦参照アドレス なし

⑧添付ファイルなど なし

[第3版(20110916)追加]

○貧困、外国人

以前より関わっているNPO法人POSSEのメンバーとともに、4月下旬に南相馬市、新地町、仙台市を簡単に視察し、その後、同団体の発行している雑誌『POSSE』第11号「<3.11>が揺るがした労働」ならびに第12号「震災と貧困」の編集企画に携わりました。

また、明石書店から10月に発刊予定の『移民・ディアスポラ研究2 東日本大震災と外国人』の編集企画、分担執筆にも携わっています。

(筑波大学 五十嵐 泰正)

[第3版(20110915)追加]

○宗教

・宗教を研究する社会学者、宗教学者による「被災地における宗教施設・宗教者の災害救

援活動の聞き取り調査」

□調査概要・目的

被災地で避難場所や救援活動の拠点となった宗教施設や宗教者の活動の実態と、市町村、他宗教、民間組織間の連携の実態・課題を調査する。その上で、被災コミュニティの復興にむけて、各組織がどのように連携し、地域コミュニティの復興にどのような機能を果たしているのか、果たしうるかを調査し、課題を抽出する。その上で、様々な連携、後方支援のあり方を検討する。

地縁、社縁、血縁が薄れる現代社会にあつて、ソーシャル・キャピタルを創出する源泉として宗教施設、NPO等の連携を丹念に調査・検討することにより、現代的なコミュニティのあり方、災害に強い社会の仕組み、東海・南海・東南海連動型地震に備えて、地域連携のプラットフォーム作りへの実践的提言を行う。

□概要は以下の通りです。

http://www.indranet.jp/syuenren/Survey110724_Inaba.html

□訪問先、聞き取り内容に関しては、「宗教者災害救援マップ」の「訪問した施設」で共有します。

<http://sites.google.com/site/fbnerjmap/home/visited>

□被災地における宗教施設・宗教者の災害救援活動の調査報告(2011年7月26～29日分)

<http://altruism.blog56.fc2.com/blog-entry-232.html>

(大阪大学 稲場圭信)

[第3版(20110915)追加]

○宗教

・「被災地における宗教施設・宗教者の災害救援活動の調査について」(抜粋)

■調査概要・目的

被災地で避難場所や救援活動の拠点となった宗教施設や宗教者の活動の実態と、市町村、他宗教、民間組織間の連携の実態・課題を調査する。その上で、被災コミュニティの復興にむけて、各組織がどのように連携し、地域コミュニティの復興にどのような機能を果たしているのか、果たしうるかを調査し、課題を抽出する。その上で、様々な連携、後方支援のあり方を検討する。

地縁、社縁、血縁が薄れる現代社会にあつて、ソーシャル・キャピタルを創出する源泉として宗教施設、NPO等の連携を丹念に調査・検討することにより、現代的なコミュニティのあり方、災害に強い社会の仕組み、東海・南海・東南海連動型地震に備えて、地域連携のプラットフォーム作りへの実践的提言を行う。

■研究組織・連携

① 稲場圭信、黒崎浩行、板井正斉(皇学館大学准教授)、濱田陽(帝京大学准教授)など、「宗教と社会貢献研究会」(旧:宗教の社会貢献活動研究プロジェクト)のメンバー

- ② 大阪大学大学院人間科学研究科「平成 23 年度ヒューマンサイエンスプロジェクト」
「コミュニティ復興の人間科学」（代表：稲場圭信）
<http://altruism.blog56.fc2.com/blog-entry-227.html>
- ③ 國學院大學 平成 23 年度 学部共同研究費 神道文化学部「地域再生と神社に関する調査とカリキュラム・教材開発」（代表：黒崎浩行、共同研究者：松本久史・藤本頼生）
- ④ 科研基盤研究B 「環太平洋における宗教NGOの国際的ネットワークに関する研究」（代表：稲場圭信、分担者：金子昭（天理大学教授）、櫻井義秀（北海道大学教授）、関嘉寛（関西学院大学准教授）、濱田陽）
- ⑤ 京都大学「こころの未来研究センター」『東日本大震災関連プロジェクト～こころの再生に向けて～』（鎌田東二）
http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/jp/eqmirai/2011/06/post_5.html
- ⑥ 大正大学いわき市調査・支援プロジェクト（代表：弓山達也）
- ⑦ 科研基盤研究C「無縁社会における宗教の可能性に関する調査研究」（代表：宮本要太郎、分担者：稲場圭信、金子昭、連携者：白波瀬達也、研究協力者：渡辺順一）「支縁のまちネットワーク」の研究部門としてホームレス支援調査などがメインになるが、部分的に連携。

■連携のお願い

被災地の宗教施設を訪問調査されている方々も多いと思います。調査を計画中の方もいらっしゃると思います。被災地の宗教施設・宗教者の方々の負担にならないように、それぞれの調査をお互いに尊重しながら、連携協力させて頂ければと願っています。ご連絡をお待ちしております。

（大阪大学・稲場圭信会員）[※8月3日第2版時の情報]

・以下の二つを立ち上げて、運営。

宗教者災害救援ネットワーク <http://www.facebook.com/FBNERJ>

宗教者災害救援マップ <http://sites.google.com/site/fbnerjmap/>

また、以下の会を東大の島藺進教授を代表に、世話人の一人として運営

宗教者災害支援連絡会 <http://www.indranet.jp/syuenren/>

（大阪大学・稲場圭信会員）[※8月3日第2版時の情報]

○女性

私は、男女共同参画会議民間議員として連名で、そして、基本問題・影響調査会長名で、文書、および口頭で、内閣（会議議長である官房長官）に対し、震災救済、復興、そして、防災のために「女性に配慮し、女性を活躍させ、普段から防災に女性を入れるよう」要望をいたしました（7月29日）。

8月24日、震災復興女性シンポジウム（内閣府主催、仙台）で、女性の重要性について発言、

25日、内閣府男女共同参画課と一緒に、石巻の被災地視察、女川町総務課長に被災状況と女性の要望に関して聞き取り、仙台市では仮設住宅コミュニティの状況について聞き取りをしてまいりました。

学術的にとりまとめる予定はありません。

(中央大学 山田昌弘)
[第3版(20110915)追加]

○若者意識に関する調査

若者意識に関する調査の一環として、詳細はまだ未定ですが、震災についての項目を数大学について調査し、来年あたり公表する予定。

(大正大学 大野道夫)
[第3版(20110915)追加]

○情報

①氏名 工藤 浩

②所属 前橋工科大学工学部講師

③連絡先 kudo-h@maebashi-it.ac.jp, kudo@cc.musashi.ac.jp

④テーマ・キーワード 噂・流言、福島第一原発事故、避難行動、マスメディア

⑤調査対象地 Web上の調査のため、とくになし

⑥内容 「福島第一原発事故」に関する「噂・流言」が、どのようにして生まれて、広まっていくのか。

とくに、ネットでの書き込みを分析するのは、発言内容がログとして残されるので、情報源を辿っていくと、デマの発生源を突き止めることが可能となる。

私が突き止めた一例が、以下に紹介するTwitter上での発信者である。

⑦参照アドレス <http://twitter.com/#!/Ani2525>

⑨これまでの研究業績など

ネットでの「噂・流言」に関心を寄せているのは、ネット上での「誹謗・中傷」などに、以前から関心をもっていたからである。

1. パソコン通信「ニフティサーブ 現代思想フォーラム」において、電子会議室等の書き込みをめぐって起きた日本初の民事訴訟で、書き込んだ本人はもとより、フォーラムの管理責任者も共同責任を問われた事件で、同時のフォーラムの管理責任者を支援する立場から、東京地裁一審判決を論評した。

『反論—ネットワークにおける言論の自由と責任』

<http://homepage2.nifty.com/gendaishiso-tty/hanron.html>

2. 現在ではパソコン通信は事実上終焉し、インターネットの時代になり、ユーザーの表現方法も多彩になっている。そこで、いわゆる匿名掲示板の管理人が取るべき法的責任について、「ニフティ訴訟」の事例を踏まえてつつ、インターネットならではの新しい状況も加味して考察した。

「新たな社会規範と秩序形成に伴うジレンマ—『2ちゃんねる』の挑戦あるいは挑発—」

<http://www.sanwa-co.com/books/0107.html>

そうしてパソコン通信に引き続き、匿名掲示板の運営においても、以下のような矛盾(ジレンマ)が生じるということを明らかにした。

・管理人が削除しないと、問題発言を知る人が多くなり、それだけ被害者が受ける被害が大きくなる。

・そこで、被害者の被害拡大を防ごうとして、管理人の一存で問題発言を削除してしまう

と、被害者としては証拠となる発言を失ってしまう。

・では、管理者が問題発言を、被害者のためと思って証拠として保存しておいたつもりになっても、被害者やその他のユーザから「問題発言を放置している無責任運営」という非難を受ける。

・結局、管理人は、問題発言を削除しようがしまいが、いずれにせよ、非難を浴びる可能性がある。

[第3版(20110915)追加]

・ツイッター、ブログ、SNSなどで、いわゆる「危険厨」と呼ばれている(ときには自称する)人たちが、「拡散希望」と題して、明らかに誤った憶測や間違った情報(デマ)を垂れ流しにしているが、彼らがデマを作り上げる過程について研究。(前橋工科大学・工藤浩会員)[※8月3日第2版時の情報]

○メディアと記憶

日本社会学会大会の自由報告部会「災害」

「デジタルメディアが救う「記憶」とは何か?—東日本大震災「思い出サルベージ」プロジェクトの成果報告—」(日本学術振興会(京都大学) 溝口佑爾会員)[※8月3日第2版時の情報]

○震災とメディア

「東日本大震災とメディア」研究会

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、地震・津波・原発事故によって、各地に甚大な被害をもたらし、その影響は現在もなお続いています。このプロジェクトは、この未曾有の大震災にメディアがどのように向き合い、何をどう伝えたかを検証することを目的としています。

これまで経験したことのない大震災にテレビやラジオはどう対応したのか。各地で開設された臨時災害放送局は地域でどんな役割を果たしたのか。原発事故の伝え方に問題はなかったか。首都圏のローカル情報は十分に伝えられたのか。外国メディアは震災をどう伝えたか。復旧や復興の過程でメディアに求められる役割とは。

放送局や制作者への聞き取り調査、実際に放送された報道・番組内容の分析を通して、メディアが東日本大震災をどのように伝えたのかを検証します。メディアやジャーナリズムが果たした意義や役割、課題や問題点を明らかにすると同時に、将来の災害報道のあり方についても提言することを目指します。

このプロジェクトは、公益財団法人放送文化基金による2011年度委託研究「メディアは東日本大震災をどう伝えたか」の一環として、以下のメンバーによって行われます。

「東日本大震災とメディア」研究会

丹羽美之(東京大学) / 市村元(関西大学) / 小林直毅(法政大学) / 林香里(東京大学) / 藤田真文(法政大学)

<http://media-journalism.org/project/higashinohon.html>

臨時災害FM、地域放送局、NHKや民放キー局の聞き取り調査を実施しています。

このほか、テレビの全国ニュースや海外ニュースのテキスト分析、内容分析を進めています。

(東京大学大学院情報学環 丹羽美之)

[第3版(20110915)追加]

○コミュニティメディア

①氏名__松浦さと子

②所属__龍谷大学政策学部

③連絡先__〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67 龍谷大学政策学部

matsuura@policy.ryukoku.ac.jp

satoko@jca.apc.org

④テーマ・キーワード 「震災後の非営利セクターのコミュニティメディア活動について」
(複数可) 防災・減災、農村、地域社会、復興、マスメディア (コミュニティメディア)、
福島第一原発事故

⑤調査対象地(予定) 臨時災害 FM 局のその後 (複数可)

直後のヒアリングは既存局

(特) カシオペア FM (岩手県二戸市)、

(特) FM わいわい (神戸市)、

(特) 京都コミュニティ放送 (京都市)

AMARC 日本協議会

⑥内容 行政手続きを経た臨時災害 FM 局や、自発的に立ちあがった、あるいは既存の市民社会型非営利メディアの震災後の対応に注目している。(持続可能性、その役割)。NPO コミュニティ FM の震災・原発特別番組編成、臨時災害 FM 局の動向など。長い目で注目してゆきたい。震災後は二戸市の既存 NPO 局に伺った。

⑦参照アドレス <http://www.ourplanet-tv.org/>

<http://radiocafe.jp/>

<http://www.tcc117.org/fmyy/index.php>

<http://779.jp/>

<http://www.tcc117.org/amarc.jp/>

(龍谷大学 政策学部 松浦さと子)

[第3版(20110915)追加]

○コミュニティ

復興現地とアメリカの市民団体(Neighborhoods, USA)との交流を、コミュニティ政策学会主催で企画しています(国際交流基金日米センターのフェニックス・プロジェクトに申請中)。アメリカ人の視察を受け入れ、強いコミュニティをつくる方法について議論してみたいと思う、前向きな姿勢で心の余裕のある(?!)被災地を探しております。

連絡先 touchi@edogawa-u.ac.jp

①氏名__大内田鶴子_____

②所属__江戸川大学 社会学部

③連絡先__touchi@edogawa-u.ac.jp

- ④テーマ・キーワード_町内会・コミュニティ・参加・防災減災・子育て支援
⑤調査対象地____千葉県流山市
⑥内容 防災地図づくりとコミュニティ組織化
[第3版(20110915)追加]

○ボランティア・支援

・渡戸一郎(明星大学ボランティアセンター長/人文学部人間社会学科教員)
「震災ボランティア活動に伴う学生支援のあり方を考える」2011年7月29日 多摩学生支援研究会(明星大学・渡戸一郎会員)[※8月3日第2版時の情報]

・仁平典宏「被災者支援から問い直す『新しい公共』」 『POSSE』11号 pp.88-96. 2011年5月25日発行(法政大学・仁平典宏会員)[※8月3日第2版時の情報]

○帰宅困難・計画停電・買物行動

・先生方の協力もいただき、下記の調査を実施。結果については、弊社HPで公開しておりご希望の方には報告書冊子をお送りしております。

- ・東日本大震災に関する調査(帰宅困難)23年WEB
- ・東日本大震災に関する調査(買物行動)23年WEB
- ・東日本大震災に関する調査(計画停電)23年WEB
- ・東日本大震災「宮城県沿岸部における被災地アンケート」23年個別面接プレスリリースは↓

<http://www.surece.co.jp/src/press/backnumber/index.html>

(サーベイリサーチセンター・遠藤倫代会員)[※8月3日第2版時の情報]

○原発

- ①氏名：小松秀雄
②所属：神戸女学院大学文学部 ③連絡先：0798-51-8646(大学研究室直通の電話)
④テーマ・キーワード：地域社会、原子力発電一般(→⑧添付ファイル「地域社会と原子力発電所」)
⑤調査対象地：福井県大飯郡美浜町、おおい(大飯)町、高浜町、関西電力原子力発電所
⑥内容：「地域社会と原子力発電所ー福井県の関西電力原子力発電所と地域社会を事例にしてー」(→⑧添付ファイル)
⑦参照アドレス：h-komatu@mail.kobe-c.ac.jp(所属先の個人専用アドレス)
⑧添付ファイル：「地域社会と原子力発電所」(神戸女学院大学研究所から提出した研究助成申請書。2011年7月に助成金交付済み)

[第3版(20110915)追加]

○原子力・エネルギー

・「原爆と原発の戦後史に関する予備的研究」という研究課題で慶応大学大学院社会学研究科から今年度30万円の助成。研究組織は、研究代表者が浜、研究分担者4名(竹村英樹・小倉康嗣・高山真・木村豊)。実質的には有末賢先生と2007年からやってきた被爆者調査史研究会(他

大学の院生も含めて10名)で得たもの。(研究計画添付)(浜日出夫会員)[※8月3日第2版時の情報]

・私の最も主張したいことは、単なる(これも大問題であることは理解しています)震災という事象を対象とするのではなく、震災事象により、より鮮明になった原子力社会構造の、異常さを、根源的に論じたいのです。(詳細ファイル有り)(宮内紀晴会員)[※8月3日第2版時の情報]

・<公正な持続可能社会を求めて>講演とディスカッション「脱原発と再生可能エネルギー」(龍谷大学里山学研究センター主催、2011年7月23日)

<http://www.2011shinsai.info/en/node/395>

●飯田哲也(環境エネルギー政策研究所所長)

「脱原発と再生可能エネルギー促進 必要な政策と行動とは」 17:30~

●アイリーン・美緒子・スミス(NGO グリーン・アクション代表)

「原発をめぐる日本社会とメディア」 16:00~

●朴勝俊(関西学院大学総合政策学部准教授)

「原発事故の被害総額 京都に迫る危険性」 15:00~

(龍谷大学社会学部・田中滋会員)[※8月3日第2版時の情報]

○低炭素社会

関西学院大学「ゼロカーボンソサエティ研究センター」(センター長 社会学部 奥野卓司)について

<http://www-soc.kwansei.ac.jp/okuno/zero.html>

2010年度から、上記の特定プロジェクト研究センターを、公益財団法人・日産財団の寄付行為によって設置し、研究活動を行っているが、今年度は、その一環として、大震災に関連した研究を行うことになった。

現在のところ、

- ・被災地での仮設住宅におけるカーシェアリング利用の実態の質的調査
 - ・新エネルギー・低炭素環境下における、観光、アニメ聖地、メディア、アート展などの復活の実態調査
- を、行っていく。

このセンターは「総括班」にあたる部分で、このもとに日産財団の「指定」「公募」研究助成を受けた複数の研究班が活動し、これらを総合して、毎年「センター研究紀要」を刊行する。

2011年9月には、2回目の「研究助成公募」を行う。この詳細は、日本社会学会、関西社会学会、社会情報学会などの各学会誌および、日産財団ホームページに、同財団から「公募広告」が出される予定。

また、同研究は、2011年7月に、関学で公募された「東日本大震災関連研究」に採択され、研究助成を受けている。この研究は、代表者の奥野と、共同研究者の関（社会学部・ボランティア論）、久保田（社会学部・医療）、角野（総合政策学部・都市工学）、角所（理工学部・情報工学）および、研究協力者の岩見（関大社）、工藤（龍谷大社）、阿部栄一（関学社・自動車論）、中津（シンガポール大メディア研）、南（センターRA）らで行う。

（この情報は、順次 RA の南さんから送らせていただきます。）

（関西学院大学社会学部・奥野卓司会員）

[第3版(20110915)追加]

・関西学院大学「ゼロカーボン社会研究センター」について

<http://www-soc.kwansei.ac.jp/okuno/zero.html>

ここは科研で言えば「総括班」にあたる部分で、9月には、2回目の「研究助成公募」を行う。これについては、日本社会学会、関西社会学会、社会情報学会などの書誌に、日産財団から「公募広告」を出すように、現在、交渉中。（情報は、順次 RA の南さんから送らせていただきます。）

（関西学院大学社会学部・奥野卓司会員）[※8月3日第2版時の情報]

・関西学院大学「Zero Carbon Society 研究センター」について

.....

「Zero Carbon Society 研究センター」（2010年10月設立）

センター長：奥野卓司（関西学院大学総合図書館長・社会学部教授）

副センター長：久保田稔（関西学院大学保健館長・社会学部教授）

本研究センターでは、昨年来、低炭素社会における「人間の移動」と「移動価値」に着目して、そのあり方について学際的な視点から理論的、実証的にアプローチしてきました。

今後、私たちの社会が低炭素社会へと向かうのはもはや前提であり、その低炭素化社会における人間の生活や文化はどう変わるのか、その道筋と帰趨を明らかにする必要があります。

しかしながら、今時の震災により、その被災地の未曾有の被害からの復興と、原発事故の反省による脱原発の流れは、ともすると「低炭素化」と対立し、旧来の技術信仰による成長、効率化の路線に逆戻りする危険性も含んでいます。今こそ、人間にとって望ましい技術を、それを受け入れる生活者の社会関係の中で検討しなければなりません。

このたび、本研究センターでは、関西学院大学研究助成（「東日本大震災関連共同研究」）を受け、東日本大震災の被災地域の復興に向けた「都市の再生」の将来像についての調査を実施する予定です。この目的のために、社会学中心のセンター所属研究員に加えて、あらたに都市工学、自動車工学、情報工学の技術系の研究者が参画し、さらにNPO論、ボランティア論、社会調査などの分野で卓越した実績を上げている社会学の研究者を研究分担者に加えました。

この調査および研究成果については、2011年度中に「Zero Carbon Society 研究センター 紀要」を発行して公表する予定です。

上記研究助成のメンバー、内容については添付資料をご参照いただきますよう、お願い申し上げます。

(関西学院大学・南裕一郎会員) [※8月3日第2版時の情報]

○東日本大震災クロニクル

1) 東日本大震災クロニクルの作成

2011年度からの科研費プロジェクトを、もともと(広義の)社会的基盤の老朽化・更新・再生をめぐる政治・経済・社会過程の分析をテーマに、原発・米軍基地・大都市建造環境を対象に準備を進めていたところ、今回の震災に遭遇しました。4月に科研費が採択されたことを受け、「社会と基盤」研究会と名づけた活動をスタートさせるとともに、今回の震災とはいったいどのような出来事であるのか、を理解する手だてとして、とりあえず、無数の出来事の束を「クロニクル(日付別に整理された記録)」としてデータ化する作業を進めてきています。データソースは、各種メディア、ウェブ上の各種機関・団体HP, チラシなどで、首都圏や国外を含め、連鎖の範囲を広くとりながら、作業を進めています。こうした作業を踏まえながら、今回の出来事の連鎖の構造を、広範な視角から、また理論的にも検証するとともに、現場に即した実証研究に踏み出す方向性について検討しています。

2) 英文によるマガジンの作成

今回の震災とその後のさまざまな出来事について、その社会科学的な意味を国際的な規模で検討していく必要性を痛感しており、そのための基盤づくりの一環として、「(動きつつある)事実」呈示と「(走りながらの)分析」紹介を目的とする、英文中心の(手作り)マガジン作成の準備を進めています(仮タイトル『Disaster, Infrastructure & Society: Learning from 2011 Earthquake in Japan』)。内容は、上記クロニクルの共有のほか、上記研究会活動とも連動させた内容を想定しており、今秋から季刊のペースで刊行することをめざしています。

連絡先 町村敬志 t.machimura@r.hit-u.ac.jp

(一橋大学 町村敬志)

[第3版(20110915)追加]

○東日本大震災と福島原発事故に関する大学生の不安感のリスク意識の調査

・いつ: 2011年5-6月

・どこで: 日本国内6都府県(宮城、千葉、東京、大阪、山口、長崎)の8大学897名

・誰が: Robin Goodwin (Brunel University, London) 高橋征仁(山口大学) Stanley Gaines Jr. (Brunel University, London) 孫少晶(復旦大学)の4名

・東日本大震災と福島原発事故に関する大学生の不安感のリスク意識の調査

・調査票および主な調査結果(対象者用)は、添付ファイルのとおりです。

<調査票・集計結果 ファイル有り>

(山口大学 高橋征仁)

[第3版(20110915)追加]

・山口大学・高橋征仁先生が、大学生を対象に、震災と原発事故に関する意識調査。英国の研究

者と共同で、首都圏の大学も含め7校で調査との情報。(山口大学・横田尚俊会員) [※8月3日第2版時の情報]

○避難行動、テレビ放送

・(1) 中森と東洋大学社会学部の中村功先生が中心となり、津波被災地の住民ヒアリング調査を続けている。この結果をもとに、津波と避難、災害情報の機能を中心として、秋にアンケート調査の実施を検討中。

(2) 中森研究室で、気象庁が適切な緊急地震速報が発表されなかったことなど、緊急地震速報に関する評価と意識調査を実施した。

(3) これからの研究であるが、今回の一連のテレビ放送の内容分析を予定している。

(日本大学文理学部・中森広道会員) [※8月3日第2版時の情報]

○スポーツ

・日本スポーツ産業学会にて「震災とスポーツマネジメント」と題するシンポジウムを企画。シンポジウム実施日は、7月17日、会場は東京工業大学。(筑波大学・高橋義雄会員) [※8月3日第2版時の情報]

・日本スポーツ産業学会では今年の学会大会テーマを

「『転換期のスポーツとスポーツ産業

-危機に負けるな！がんばれニッポン！ふんばれスポーツ！-』

として実施した。内容は以下のHPの通り。

http://www.spo-sun.gr.jp/html/event/a_late.html

(筑波大学・高橋義雄会員) [※8月3日第2版時の情報]

○その他

・江戸川大学と大学立地地域社会：市・NPO・UR・大学参加の協議体で実施 [※8月3日第2版時の情報]

・消防庁消防研究センターにて 研究評価委員として関与(プロジェクトが始まる可能性あり)

(江戸川大学・大内田鶴子会員) [※8月3日第2版時の情報]

・私を含む国際学部教員数名が、インドネシアにおける災害対策について共同プロジェクトを行う予定です。来年春現地調査の予定。

(拓殖大学・新田目夏実会員) [※8月3日第2版時の情報]

・名古屋市昭和区における「福祉まつり」でのシンポジウム。来る9.11に「私たちは東日本大震災に何を学ぶか」というタイトルで、シンポジウムを開催。(東海学園大学・宮本益治会員)

ii 震災関連の社会学シンポジウム、研究会、学会の大会企画など、催し情報

○シンポジウム・震災と停電をどう生き延びたか
福島の在宅難病患者・人工呼吸器ユーザー（他）を招いて

2011/09/18 於：京都市ハートピア京都大会議室 13:00

災害と障害者・病者：東日本大震災／電気／停電関連

*専用ブログ：<http://shinsaiteiden.blog.fc2.com/>

【趣旨】

東日本大震災後では、停電時に山形県尾花沢市で人工呼吸器を使用している人が死亡するなど、在宅で人工呼吸器や痰吸引機などを使って暮らす人たちの生命を脅かす事態を招きました。

日本ALS協会福島県支部では、外部バッテリー1台ではしのぎきれない長時間停電で、医療機関や呼吸器の業者も被災し、在宅患者がSOSを発信することも困難だったことから、地域ごとに充電済みバッテリーを配備するなど取り組みを始めています。また千葉市のALS患者らが利用者する介護事業所によると、突然の計画停電実施により、地域の障害者のケア態勢は大きな混乱に陥り、内蔵バッテリーが説明書に書いてある持続時間より保たなかったり、エアマットも空気が抜けてしまうなど、対応に追われたそうです。

電力供給の不足が関西電力のエリアでも叫ばれる中、京都で人工呼吸器を使って在宅で暮らす重度障害者らに幅広く呼びかけ、東日本大震災で停電に会った福島県や、計画停電が実施された千葉県で生命の危機に直面した人工呼吸器やたん吸引機を使う人たちを京都に招き、その経験からどう暮らしを守り、地域で守る大切なものは何かを学びます。

【開催日時】 2011年 9月18日（日曜） 午後1時半～

【場所】 ハートピア京都 大会議室

京都市中京区烏丸通丸太町下がる（地下鉄丸太町駅すぐ）

<http://www.heartpiakyoto.jp/access/index.html>

【参加費】 500円

【パネリスト】

「震災と福島 在宅を支える絆」

佐川優子さん／ALS協会福島支部長

安田智美さん／ALS協会福島支部理事（患者家族）

中手聖一さん／ILセンター福島・子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク代表

長谷川詩織さん／いわき自立生活センター

「使えなかった非常時の備え

～千葉県での計画停電による在宅療養生活への影響と対策」

伊藤佳世子さん（千葉市の介護事業所「りべるたす」／千葉県のALS在宅患者）

【申し込み・注意】

開催要綱は今後、変更される可能性があります。

申し込み方法を含めて、

ブログ <http://shinsaiteiden.blog.fc2.com/> でお知らせします。

会場には看護師が待機しますが、車椅子や医療機器を使われている方は事前連絡を

e-mail: shinsaiteiden@gmail.com をお願いします

【呼びかけ人】 ALS協会近畿ブロック幹事 増田英明／NPO法人「ゆに」代表 佐藤謙

【主催】 シンポジウム「震災と停電をどう生き抜いたか」実行委員会 【協賛】 日本ALS協会近畿ブロック／立命館大学生存学研究センター

【賛同者】

NPO法人ゆに／日本自立生活センター・小泉浩子／かりん燈・渡邊琢／

立命館大学大学院・西田美紀／ 京都工芸繊維大・阪田弘一ほか

(立命館大学生存学研究センター 渡辺克典)

○5月10日に「エスラボ」という学生団体を立ち上げました。

■構成メンバー：一橋大学の大学院生を中心に、国立市民や、教員と協力しています。

■目的：震災後に起きた様々な問題について、社会学的／人類学観点と市民を繋ぐ研究会の開催

■代表：一橋大学社会学研究科博士課程 沢辺 満智子 Machiko Sawabe

■活動実績：7月3日（水）一橋大学兼松講堂にて『エネルギーの未来を考える』映画企画（詳しくは）

今後の予定は

11-3 一橋祭にて 飯田哲也氏を呼び、講演会及び議論を企画中です。

(一橋大学大学院 佐藤圭一、森啓輔、永山聡子)

足もとから考えるエネルギーの未来

『ミツバチの羽音と地球の回転』上映会&鎌仲監督講演会

3月11日の東日本大震災、それに伴う福島原子力発電所での事故は、日本だけでなく世界を震撼させ大きな悲しみをもたらしました。

同時にそれは、従来のエネルギーのあり方を真剣に考え直すきっかけとなりました。

これからの暮らし、エネルギーの問題を、私たち一人一人はどのように考えていけばいいのでしょうか。

そこで今回、この問題について考えるヒントとなる映画、『ミツバチの羽音と地球の回転』を一橋大学にて上映します。

当日は上映に加えて、鎌仲ひとみ監督にもお話いただきます。一人でも多くの方と一緒に、未来のエネルギーについて考えたいと思います。

場所 一橋大学 兼松講堂

日時 2011年7月6日(水曜日)

開場 17:00(上映開始17:30より 監督講演会20:00より)

料金 500円

*節電のため当日は冷房が付きません。予めご了承下さい。

主催：一橋大学学生サークル エスラボ

後援：国立歩記、kunitter

連絡先：slab0510@gmail.com 080-6520-4550 (沢辺/一橋大学院社会学研究科)

★同時開催！「未来に向かって歩こう！ペーパーパレード」

これからの暮らしやエネルギーについて、あなたの意見、アイデア、メッセージを自由に書き込んでください。

未来へのメッセージをのせて、ウォーキングマンが大パレード！

「ペーパーパレードプロジェクト」は、未来に向けてアイデアを出し合う、ポジティブな新しいコミュニケーションの場を目指します。

そしてこの活動が、福島原発で被災された方々の支援につながることを、心から願います。

*当日は福島原発で被災された方々のチャリティーも行う予定です。

主催：Paper Parade Project 実行委員会

~~~~~

映画情報『ミツバチの羽音と地球の回転』(監督：鎌仲ひとみ 音楽：shing02 制作・配給：グループ現代 2010年4月完成 上映時間2時間15分 )

瀬戸内海・上関町に28年前持ち上がった原発の建設計画。自然と生きる祝島の住民は猛然と反対するものの、反対運動は今ますます厳しさを増している。島のもっとも若い働き手、孝くんは妻子を抱えて島の自立を模索している。解決の糸口は北欧・スウェーデンに。電力を自由化し、地域自立型の自然エネルギーへと舵を切る、持続可能な社会のための試みがそこにはあった。

\*鎌仲ひとみ監督プロフィール

映像作家。富山県氷見市出身。早稲田大学卒業後、フリーの助監督として映画製作の現場へ。1990年から文化庁芸術家海外派遣助成金を受けて、カナダ国立映画製作所へ。その後、ニューヨークで活動する。1995年に帰国してからは、フリーの映像作家としてテレビ番組、映画を作成。代表作に、『ヒバクシャー世界の終わりに』『六ヶ所村ラブソディー』

### ○科学・技術と社会の会

科学・技術と社会の会 (Japan Association for Science, Technology & Society) では、東日本大震災・福島第一原発事故以降、9月までに研究会を連続して4回、シンポジウムを1回開催してきました。以下にその概要を記します。レジュメなどの詳細は科学・技術と社会の会のウェブサイト (<http://www.1.u-tokyo.ac.jp/JASTS/>) をご覧ください。

以下研究会情報

科学・技術と社会の会 174th

日時：2011年4月27日(水) 6:00~8:00 PM

場所：東京大学本郷キャンパス法文1号館 215番教室

話題提供者：古川勝久氏（文部科学省科学技術振興機構）  
テーマ：「複合災害対策における科学技術界の反省と課題」

科学・技術と社会の会 175th

日時：2011年6月3日（金） 6:00～8:00 PM

場所：東京大学本郷キャンパス法文1号館 215番教室

話題提供者：岩田修一氏（東京大学）

テーマ：「核に関する学問と社会—自己組織化と多様性／普遍性」

科学・技術と社会の会 176th

日時：2011年6月17日（金） 6:00～8:00 PM

場所：東京大学本郷キャンパス法文1号館 210番教室

話題提供者：標葉隆馬氏（総合研究大学院大学）

テーマ：「地震・津波・原発 - 科学技術社会論の観点から見る課題 -」

科学・技術と社会の会 177th

日時：2011年7月13日（水） 6:00～8:00 PM

場所：東京大学本郷キャンパス法文1号館 315番教室

話題提供者：安俊弘氏（カリフォルニア大学バークレー校）

テーマ：「これからの原子力システムと教育の見直しに求められること」

以下シンポジウム情報

科学・技術と社会の会創立23周年・『年報 科学・技術・社会』

刊行20周年 記念シンポジウム

テーマ：「東日本大震災・福島第一原発事故の投げかける問題にどう向き合うか」

科学・技術と社会の会（Japan Association for Science, Technology & Society 1988年創立）の学術雑誌、年報『科学・技術・社会』（1992年創刊）の第20巻刊行ならびに科学・技術と社会の会の創立23周年を迎えて、下記の記念シンポジウムを開催しました。東日本大震災・福島第一原発事故に遭遇し、科学・技術と社会の会と『年報科学・技術・社会』が担おうとしてきた科学社会学（sociology of science and technology）は学問、政策、社会についてどのような展望を切り拓くことができるのでしょうか。異なる関連分野の研究者を交えて再帰的な問題提起と将来の課題を展望しました。当日は、台風の中、学際、業際、国際を問わず100名を上回る参加者を得て、活発な討論が展開しました。

日時：2011年9月3日（土） 10:00-

会場：東京大学山上会館 大会議室

\*[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_00\\_02\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_00_02_j.html)

参加：無料

プログラム：

10:00—10:10 開催の趣旨説明  
10:10—12:40 パネル討論 1  
震災・原発事故をふまえた再帰的な問題提起  
パネリスト:

石山徳子 (明治大学 地理学)  
伊藤憲二 (総合研究大学院大学 科学史)  
寿楽浩太 (東京大学 原子力社会論)  
立石裕二 (関西学院大学 科学技術社会学)  
司会: 小田卓司 (東京大学 核融合)

12:40—14:00 昼食

14:00—16:30 パネル討論 2

震災・原発事故からの再帰的な問題提起をふまえた社会、学問、政策の展望  
パネリスト:

安 俊弘 (カリフォルニア大学バークレー校 原子力工学)  
加藤陽子 (東京大学 日本近代史)  
田中 淳 (東京大学 災害情報論)  
松本三和夫 (東京大学 科学社会学)  
司会: 伊藤憲二 (総合研究大学院大学 科学史)

16:30—16:45 コーヒーブレイク

16:45—17:45 まとめ

18:15—20:15 懇親会 (会費制)

現在までに科学・技術と社会の会の会員が参加して開催された国際会議情報  
2011 Advanced Summer School of Nuclear Engineering and Management with Social-  
Scientific Literacy: Reflections on the Fukushima Nuclear Accident and Beyond,  
31 July - 6 August 2011, University of California, Berkeley

今後、10月に東日本大震災・福島第一原発事故関連としては6回目となる以下の研究会を行います。

今後の予定情報

科学・技術と社会の会 178th

日時: 2011年10月26日(水) 6:00~8:00 PM

場所: 東京大学本郷キャンパス法文1号館 216番教室

話題提供者: 開沼博氏 (東京大学)

テーマ: 「原発立地周辺地域から考える3・11までの／からの原子力と社会」  
(東京大学 松本三和夫)

### ○日本老年行動科学会

日本老年行動科学会 第14回大会 (青森大会)

日時 2011年10月8日(土) ~9日(日)

場所 「ウエディングプラザ アラスカ」 青森県青森市新町1-11-22  
電話 017-775-4141

9日(日)10時40分から12時45分

シンポジウム 「東日本大震災報告 被災者に寄り添う支援を考えるー岩手県内での活動ー」

岩手県内 養護老人ホーム施設長の活動 および 岩手県立大看護系教員 の活動を報告を行います。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsbse/>

(明治学院大学社会学部社会福祉学科 岡本多喜子)

### ○日本災害情報学会、社会貢献学会

10月29日-30日に名古屋大学で開催される「日本災害情報学会」第13回学会大会

[http://www.jasdis.gr.jp/01gakkai\\_taikai/index.html](http://www.jasdis.gr.jp/01gakkai_taikai/index.html)

および

12月10日に神戸学院大学ポートアイランドキャンパスで開催される「社会貢献学会」第2回大会

<http://js-ss.org/news/information/entry-198.html>

では、それぞれ、東日本大震災に関するシンポジウムが開催されます。

(大妻女子大学 干川剛史)

### ○日仏社会学会

日仏社会学会では、以下のシンポジウムを企画しています。

10月22日「日仏社会学会創立75周年記念 2011年度日仏社会学会大会」(共催 日仏会館)

大会シンポジウム テーマ 「リスク・不安・格差ー3. 11以後の社会を考える」於日仏会館

司会・問題提起 荻野昌弘(関西学院大学)

基調講演 アンリ・ピエール、ジュディ(フランス国立科学研究センター)

報告 松村祥子(放送大学)

報告 三上剛史(神戸大学)

(関西学院大学 雪村まゆみ)

○日本マスコミュニケーション学会 6/12 シンポジウム「東日本大震災とメディア」

[http://wwwsoc.nii.ac.jp/mscom/event/annual\\_meeting/11spring/11spring\\_sympto.pdf](http://wwwsoc.nii.ac.jp/mscom/event/annual_meeting/11spring/11spring_sympto.pdf)

(明治大学・藤田結子会員) [※8月3日第2版時の情報]

○日本社会情報学会(JSIS&JASI) 2011年度大会(9月9日・静岡大学)で、東日本大震災についてのシンポジウムを開催予定。(日本社会情報学会(JSIS&JASI)・静岡大学・藤井史朗会員)

[※8月3日第2版時の情報]

○日本行動計量学会

シンポジウムについて

2011年9月13日に、岡山理科大学にて、第39回大会が行われ、その中で、シンポジウムがありました。市民講座『災害報道と行動計量学』として、一般にも公開されました。  
<http://www.bsj2011.org/specialsympo.html>

大会について

また、第39回大会では、いくつか震災関連の報告もありました。避難所での調査などは、各省庁のものや、疫学調査など、調査が多すぎて、調査公害になっているという話が出ていましたが、きちんとした無作為抽出を伴うような社会調査は、少ないようです。

(立教大学 村瀬 洋一) [第3版 (20110916) 追加]

### iii 震災関連のアウトプット情報

○飯坂正弘会員 (農研機構・中央農業研究センター)

日本統計協会刊の月刊誌『統計』9月号で

<http://www.jstat.or.jp/publish/monthly/201109.html>

「震災と統計」という特集を組んでおります。

地理学の太友先生、井上先生とともに小生も感想文的ながら、被災地出身者として一筆書かせて頂きましたのでご連絡いたします。

○後藤一蔵会員 (東北福祉大学)

・「その時、私は」～巨大地震が襲ってきた～ 『近代消防6月号』(近代消防社)

・「消防団はどうあるべきかーその今日的課題と東日本大震災を踏まえてー『都市問題 9月号』(東京市政調査会

9月1日発刊

・「限界状況下において消防団はどう行動したか」『農業協同組合経営実務』増刊号(全国共同出版株式会社)

9月15日発刊予定

○松本三和夫会員 (東京大学)

・『思想』(岩波書店)特集:科学社会学の frontline にて、第1046号、2011年

チェルノブイリ事故のカンブリア地方の羊農家への放射性セシウムの影響とセラフィールド処分場との関連分析でつとに知られる社会学者の Brian Wynne とその批判者である社会学者の Harry Collins などとともにテクサイエンス・リスクにかかわる国際会議を2010年の8月に東京で開催した結果のまとめになります。はからずも、3・11の事故直後に刊行されることになりました。東日本大震災・福島第一原発事故の投じる問題とふかくかかわりますので、掲げておきます。

・安俊弘・松本三和夫

対談「福島原発事故を招いた社会的要因をさぐるー独立な専門知よる適正な評価システムをいかにつくるかー」、

『科学』(岩波書店)第81巻、第9号、2011年、904-913頁

・安俊弘・松本三和夫

インタビュー「専門家はいかに市民に伝えるべきか」、  
『kotoba』（集英社）特集：ポスト「3・11」、日本のかたち、2011年秋号  
（東京大学 松本三和夫）

○干川剛史会員（大妻女子大学）

上記の被災地で干川が行った実態調査結果については、今回の日本社会学会大会でのポスターセッションのための報告用原稿と、12月10日に神戸学院大学で開催される予定の社会貢献学会大会での発表草稿にまとめて、干川が構築した「平成23年東日本大震災」サイト

<http://jpgis.jp/group.php?gid=10033>

に掲載してありますので、それぞれの原稿の容量が大きくてダウンロードに時間がかかってしまい、申し訳ありませんが、ご覧ください。

#### iv その他

・とくに有意義な情報というわけではないのですが・・・「東日本大震災関係」問題の呼称が略称であることは理解できるのですが、その場合一般には地震と津波を意味するため、ややミスリーディングかもしれないなあという気がしております。今回の災害が地震、津波、原発事故という複合災の様相を持つ点に特徴があるのだとすると、「東日本大震災・福島原発事故」、あるいは略して「大震災・原発事故」のような呼称を用いるほうが、いろいろな意味で適切かと存じます。

（東京大学 松本三和夫）

東洋大学では、以下のような取り組みがあります。

- ・2011 夏季学生派遣ボランティア東北応援プロジェクトで、東松島市・遠野市・気仙沼市に約450名の学生を短期派遣
- ・「首都圏・学生災害復興支援チーム」としての、長期的なボランティア活動
- ・4月末～6月初に連続緊急シンポジウムを計5回開催
- ・東洋大学「東日本大震災復興問題対策チーム」の結成
- ・被災地の農産物の学内販売、学食での応援メニュー提供など

詳細は、[http://www.toyo.ac.jp/2011reconstruction/index\\_j.html](http://www.toyo.ac.jp/2011reconstruction/index_j.html) をご覧ください。

（東洋大学社会学部 西野淑美）

2011/07/23、8/3 改訂、8/4 再編集、9/16 追加編集 山下記

## 付録

今後、取り扱う情報の内容、利用法については、以下のように議論されています。9月18日の第2回情報連絡会での議論を受けて、本格的に稼働する予定です。

### □会員間で情報共有・情報交換すべき項目

- i 東日本大震災関連の社会学調査研究の活動情報  
いつ、どこで、だれが、どんな研究をしているのか。 社会学者の間で共有し、無用なバッティングを避けるとともに、お互いの連携を図っていきます。
- ii 震災関連の社会学シンポジウム、研究会、学会の大会企画など、催し情報  
開催の告知や参加募集、また開催後の記録作成など
- iii 震災関連のアウトプット情報  
会員による記事や論述、報告書や論文、著書。研究アウトプットの提供、あるいはその内容紹介など。誰が、何を考え、どんな情報を発信しているのか。
- iv その他  
他学会などとの関係で必要な情報など、その他、震災問題に取り組む社会学者にとって有意義な情報。

### □ホームページ掲載情報

以上の情報をもとに、研究活動委員会では、メーリングリストで流れた情報を定期的に（月に一度程度）ホームページに掲載します。掲載内容は以下の項目を予定しています。ホームページへの情報とりまとめは、月1回程度で行います。

- 1) 震災関連研究者情報：被災地ごと、テーマごとに、だれがどこで何を行っているかを整理し、掲載します。
- 2) シンポジウムなどイベント情報
- 3) 社会学者による震災関連の研究成果一覧の公表（調査地別、テーマ別）

※ メーリングリストの皆様の情報提供にあたっては、以下の項目を必ずお書き下さい。（情報整理簡略化のため、ご協力下さい。）

- ①お名前・ご所属
- ②テーマ、キーワードの記載（ホームページでは、別表のように区分する予定です）
- ③調査研究の情報に関しては、調査対象地の名称（〇〇県、〇〇市町村レベルまで）を必ず記入下さい。また、とくに地域限定でない場合は、「なし」を明記ください。

<テーマ・キーワード表（今後の状況を見て変更あり）>

避難行動

防災・減災

都市

農村

地域社会

東北論

復興  
心の問題  
子ども・教育  
家族  
マスメディア  
噂・流言  
犯罪  
外国人  
障害者  
労働・経済  
ホームレス  
政治  
科学・思想  
科学史  
原子力発電一般  
福島第一原発事故  
国家論・国際関係論

<地域情報>

できるかぎり、県名ないしは市町村名で記入下さい（複数記載可）。被災地に関しては県ごと、市町村ごとに分類します。被災地以外についてはブロック別、県別に区分して公開します。

情報提供にあたっては、以下のような項目に留意していただけると助かります。

○情報提供フォーマット

①氏名\_\_\_\_\_

②所属\_\_\_\_\_

③連絡先\_\_\_\_\_

④テーマ・キーワード\_\_\_\_\_（複数可）

⑤調査対象地\_\_\_\_\_県\_\_\_\_\_市・町・村（複数可）

⑥内容

⑦参照アドレス

⑧添付ファイルなど